

VIEWnext

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

2023

8

August

特集

年内入試支援

— 引き出し、共に創る

「マイ・ストーリー」

表紙の学校
東京都・私立
瀧野川女子学園
中学校・高等学校



指導変革の軌跡

宮城県・私立 仙台城南高校

発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

総合的な探究の時間

山梨県立甲府西高校 細倉真美

数学

岐阜県立大垣北高校 落合一太



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、
授業のダイジェストを(動画)で紹介!

<https://view-next.benesse.jp/>



先生なら、 どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

受験勉強と部活動の両立に 悩んだ末に、 苦渋の選択をしようとした 生徒に向き合ったあの時

東京都立新宿高校 寺島求

てらしま・もとむ ● 同校に赴任して4年目。数学科。複数の東京都立高校で、進路指導に長く携わる。教師としてのモットー「凡事徹底」は、進路を切り開くために生徒に求める生き方でもある。



難 関大学を目指す3年生から、こんな相談を受けたことがあります。「6月の運動部の地区大会の結果、上位大会出場が決まれば、8月まで練習が続きます。自分は受験勉強を優先したいので、上位大会への出場資格を得ても辞退しようと思っているのですが、顧問の先生や家族からは、『ほかの生徒に失礼だ。絶対に辞退してはいけない』と言われてしまって……。考え抜いた結論を理解してもらえなかったつらさを言葉ににじませながら、生徒はこう続けました。「3年生の中には、上位大会に進まないで済むように、わざと負けることを考えている人もいます。自分もそうするしかないのかと……」。

わざと負けるしかない——残念な言葉でしたが、生徒の表情から、その結論に至るまでにどれほど悩んだのかも理解できました。受験勉強も部活動も両方頑張った方がよいことは生徒も分かっている。その上で悩んでいる生徒に何を伝えればよいのか。ひと呼吸置いて、私は生徒に語りかけました。

ま ずは地区大会で全力を尽くし、結果が出た時に、改めて自分に向き合ってみてはどうだろう。上位大会への出場資格を得て、まだ頑張りたいと思うなら出場すればよいし、もうやり切ったと思うなら、辞退するのも1つの選択肢だ。あなたの選択に対して周囲はあれこれ言うかもしれないが、あなたの人生の選択はあなた自身がすればよい。ただ、わざと負けるのは、大義名分が立たない行為だ。その選択をすることで、あなたの心に傷が残ってしまうのではないかということが心配だ。私は1人の人間としての信念を生徒に伝えた後、教師としての経験を踏まえて、言い添えました。「今のあなたの力を見ると、約2か月間の勉強の遅れは、その後の努力次第で個別試験までに取り返すことは可能だと思うよ」。

「大義名分が立たない……。そうですね」。生徒は心のつかえが取れたような様子で言いました。「友達は『わざと負けるのも“あり”だね』と、賛成も反対もしないんです。でもそれは、自分を気遣ってくれていたんですね。先生にはっきりと『大義名分が立たない』と言われて、すっきりしました。確かに、個別試験までを見据えると、挽回できる時間はありますよね」。

生徒は「地区大会、頑張ります」と、晴れ晴れとした顔で言いました。受験勉強も部活動も両方頑張ることは、簡単なことではありません。もし同じような相談を生徒からされたら、読者の先生方は生徒にどんな言葉をかけますか？

生徒からの相談に回答する際、迷いは生じなかったのか？ 本エピソードの土台となる寺島先生の指導観について、ウェブオリジナル記事ではより詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article16396/>

巻頭 先生なら、どうしますか？

新連載

受験勉強と部活動の両立に悩んだ末に、苦渋の選択をしようとした生徒に向き合ったあの時
東京都立新宿高校 寺島 求

2 特集

年内入試支援 ——引き出し、共に創る「マイ・ストーリー」

22

発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

22

総合的な探究の時間

山梨県立甲府西高校 細倉真美

3年次の論文作成を目標に、1年次から論理的思考力を醸成

26

数学

岐阜県立大垣北高校 落合一太

生徒に教え過ぎず、問いかけや生徒同士の対話で、理解に導く

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

30

探究学習 伴走する教師たち

新連載

宮崎県立都城商業高校 北郷晶子

調べ学習に終わらせない！

生徒とともに新たな課題を設定し、エシカルな売店作りに挑んだ

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

32

そうだったのか！ 学習評価

新連載

負担感も軽減！

学習評価の本質を押さえる

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

34

指導変革の軌跡

宮城県・私立仙台城南高校

学年団の指導改革

学年全体で個々の生徒に寄り添い、

目標意識や学力の向上を支える

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

38

新課程レポート

新課程2年目「情報I」の授業実践と
入試対応を考える

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

42

追跡！ 働き方改革

新連載

生き生きと働き続けられる学校づくりへの挑戦

愛媛県立松山南高校編

第1回 自校の現状と向き合う

長時間勤務の解消に向け、既存業務の見える化を

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

44

教室から始める

新連載

ウェルビーイングな社会

福岡県立ありあけ新世高校 定時制課程

11人の社会人が向き合った

多様な生徒の「ありのまま」の学び

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

46

創り人からのメッセージ

新連載

For Society, For School

発明家 高橋鴻介

目でも指でも読める点字「ブレイルノイエ」に見る

みんながつながる未来

お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

56

Reader's VIEW

<https://view-next.benesse.jp/>

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本/（株）協同プレス 編集協力/（有）ペンダコ 執筆協力/二宮良太 撮影協力/荒川 潤、
谷口 哲、筒井岳彦、ヤマグチイッキ イラスト協力/伊藤美樹、カモ、斉藤明子
※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。
※本誌記載の記事、写真の無断複製、複製及び転載を禁じます。 © Benesse Corporation 2023

援



年内入試支

——引き出し、共に創る「マイ・ストーリー」

弊誌は、創刊400号を迎えた前号において、これからの高校教育のあり方について考える記念特集を組みました。同特集ではバックカスティングの視点で、望まれるこれからの社会像を考えた上で、そうした社会の創り手を育むために必要な、高校教育が今後取り組むべき課題を、「学び続ける人材の育成」「地域・家庭とともに生徒を育てる」「教師が生き生きと働き続けられる環境づくり」の3つに焦点化しました。

今号以降はフォアカスティングの視点で、それら3つの課題につながる、今まさに現場の先生方が直面しているテーマの連載コーナーがスタートします。例えば、「学び続ける人材の育成」につながるものとして、探究学習（「探究学習 伴走する教師たち」）や学習評価（「そうだったのか！ 学習評価」）をテーマとしたコーナーの連載を始めます。3つめの働き方改革につながるものとしては、働き方改革の実践を追うコーナー（「追跡！ 働き方改革」）が該当します。

特集も現場の今課題をテーマとして取り上げてまいります。今号は、一般選抜を上回るまでその募集枠が拡大している「年内入試」(*)における生徒支援のあり方について考える特集を組みました。「マイ・ストーリー」「引き出す」「共に創る」をキーワードに、ぜひご覧ください。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

※総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜を指す。9～12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い両選抜を、ここでは「年内入試」と総称する。

P.4 課題整理

生徒の内面を引き出す問いかけで、「マイ・ストーリー」の構築を支援

東京都・私立トキワ松学園中学校高校 進路指導部長 加藤美恵子

広島県・私立広島桜が丘高校 1学年主任 沖村将彦

熊本県立宇土中学校・宇土高校 探究部長、進路指導主事 後藤裕市

ベネッセコーポレーション 高大接続部 部長 富田泰成

ベネッセコーポレーション 教育情報センター センター長 谷本祐一郎

P.10 実践事例

P.10 実践事例1 ●東京都・私立トキワ松学園中学校高校

1年次から学校設定科目や対話で関心を掘り起こし、表現力も育む

P.13 実践事例2 ●広島県・私立広島桜が丘高校

「桜が丘6マインド」を軸に、生徒のよさや成長を教師が語る

P.16 実践事例3 ●熊本県立宇土中学校・宇土高校

探究の学びを軸に、UTO-LOGICを駆使して「問い」を創る力を養う

P.19 自己理解を促すかわり方を考える

教師の共感的なかわりの中で、生徒は自身の思いを再構築する

富山大学保健管理センター 客員准教授 西村優紀美

生徒の内面を引き出す問いかけで、「マイ・ストーリー」の構築を支援

総合型選抜と学校推薦型選抜（以下、年内入試[*1]）の募集枠の拡大に伴い、同選抜による大学入学者数が増加している。教科指導に加え、年内入試で重視される志望理由書の作成や面接などに臨む生徒に対する支援が教師に求められる中で、学校、そして教師は、どのような課題に直面しているのだろうか。P.10以降の実践事例に登場する3校の教師が語り合った。

熊本県立宇土中学校・宇土高校
探究部長、進路指導主事

後藤裕市

プロフィールは P.16

広島県・私立広島桜が丘高校
1学年主任

沖村将彦

プロフィールは P.13

東京都・私立トキワ松学園中学校高校
進路指導部長

加藤美恵子

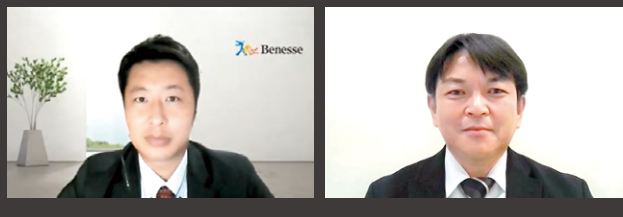
プロフィールは P.10



ベネッセコーポレーション
教育情報センター センター長

谷本祐一郎

全国の高校教師向けのセミナーの企画、大学入試や教育動向の分析を統括



ベネッセコーポレーション
高大接続部 部長

富田泰成

高校生と卒業後の進路先の接続を深めるためのサービス・教材の開発を統括

「マイ・ストーリー」とは……

生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す

「マイ・ストーリー」を描き、それを語る力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版 2021年8月号・特集はこちら ▶



谷本 まず、ここ数年の年内入試の状況を整理します。年内入試による大学入学者の割合は、2021年度入学生で5割に達し、22年度入学生では一般選抜による入学者の割合を上回りました(図1)。国公立大学でも年内入試の募集枠は拡大しており(図2)、今後もその傾向が続くと考えられます。

加藤 年内入試の拡大は、本校の受験状況からも実感しています。7年前に私が3年生の担任を務めた時、クラスの3分の2の生徒は一般選抜の受験者でした。それが一転して、昨年度担任を務めた3年生のクラスでは、3分の2の生徒が年内入試を受験しました。

谷本 それは大きな変化ですね。大学へのアンケート調査の結果を見ると、年内入試の選抜で最も重視するのは

近年の入試環境
の変化における
注目点は？

拡大を続ける年内入試では
「マイ・ストーリー」が鍵に

* 1 総合型選抜(旧AO入試)と学校推薦型選抜を指す。9~12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い両選抜を、ここでは「年内入試」と総称する。

年内入試支援

— 引き出し、共に創る「マイ・ストーリー」 —

図2 国公立大学で年内入試の募集枠が拡大

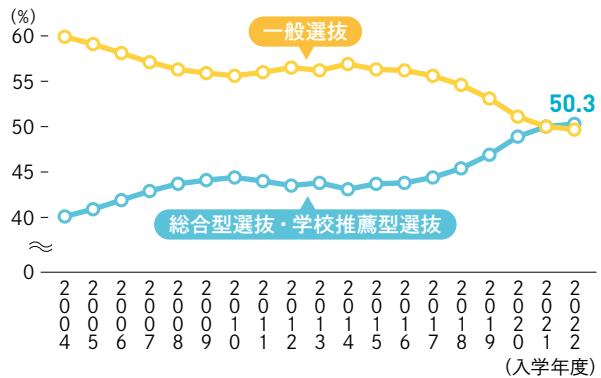
■ 2024年度入試 国公立大学の募集枠の変更点

会津大学	コンピュータ理工学部で学校推薦型選抜30人増(前期日程30人減)
宇都宮大学	工学部基礎工学科で総合型選抜を新規実施(定員10人)、学校推薦型選抜5人増(前期日程15人減)
埼玉県立大学	保健医療福祉学部で学校推薦型選抜27人増(後期日程40人を廃止、前期日程13人増)
東京工業大学	総合型選抜48人増、学校推薦型選抜30人増(前期日程78人減)。総合型選抜では、一般枠118人、女子枠58人
大阪大学	医学部保健学科で学校推薦型選抜4人増(前期日程4人減)
広島大学	総合科学部で総合型選抜6人増(前期日程6人減)
鹿児島大学	農学部で学校推薦型選抜36人増(前期日程36人減)

※ベネッセコーポレーション調べ。最新の情報は、大学のウェブサイト等でご確認ください。

図1 年内入試による入学者が5割超に

■ 総合型選抜・学校推薦型選抜の入学者の割合の推移



注1) 2021年度以降は「その他の選抜」の区分が新設されたため、20年度以前に学校推薦型選抜に含まれていた一部の選抜が別集計となった。
 注2) 値は「一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者の合計」に対する各選抜の入学者の割合。
 ※文部科学省「国公立大学入学者選抜実施状況」を基にベネッセ教育情報センターが作図。

図3 年内入試で重視されるのは、「明確な志望動機」

■ 総合型選抜・学校推薦型選抜で重視すること

重視すること	総合型選抜 (%)	学校推薦型選抜 (%)
明確な志望動機 (大学・学部・学科で学びたい理由)	89	79
基礎学力	28	62
思考力、判断力、表現力などの資質・能力	55	54
コミュニケーション能力	63	53
何事にも前向きに取り組む姿勢	61	50
卒業後の展望 (社会に出た後にやりたいことやその理由)	55	43
自らの興味・関心に応じて行動できる力	47	39
協調性	45	38
社会の諸課題に対する関心や課題意識	33	28
興味・関心のある分野についての専門的な知識	27	21
リーダーシップ	28	20
各種大会や資格、探究活動などの目標を達成するためのプロセス	28	18
各種大会での受賞歴、各種資格の取得状況、探究活動の実績	24	17

※ベネッセコーポレーション「2021年度 学校推薦型選抜・総合型選抜に関する大学アンケート調査結果」を基に編集部で作成。

「明確な志望動機」で、思考力・判断力・表現力等の資質・能力のほか、「マイ・ストーリー」に不可欠な「卒業後の展望」も重視されています(図3)。

沖村 年内入試の対応としては、探究学習などを通じて生徒に資質・能力を育むとともに、生徒自身の学びの経験に基づいた志望動機や将来像を、生徒が他者に伝えられるようにすることが求められると思います。

谷本 その通りだと思います。先生方と年内入試についてお話をすると、「本校では年内入試で評価されるような探究学習はできていないし、華々しい実績があるわけでもない」とよく言われますが、大学はそのような実績だけを評価するわけではないようです。ある大学の入試担当者は、どのような経験から何を学び、何ができるようになったか、そして、それを将来にどうつなげていくのかを明確化し、語れることを、年内入試において重視していると話していました(本誌22年10月号特集を参照「*2」)。まさに図3の調査結果が示している通りです。

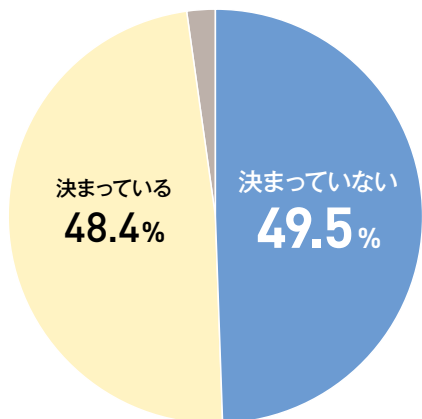
後藤 年内入試で合格した本校の生徒の志望動機を見ても、学校内外での学びを通じて育んだ資質・能力と、大学入学後までを視野に入れた展望を、自分の言葉で表現できていました。

*2 2022年度10月号の特集「高大接続の視点で見通す2025年度大学入試」では、多面的・総合的評価を推進する4大学が、2025年度入試に関する方針や、その背景にある大学が求める人材像、大学の学びを通じて育成する資質・能力などについて語った。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の「高校版バックナンバー」(https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/)、または右の2次元コードからアクセスしてご覧ください。



図5 2年生で指定校型を希望しても、約5割が志望校“未定”

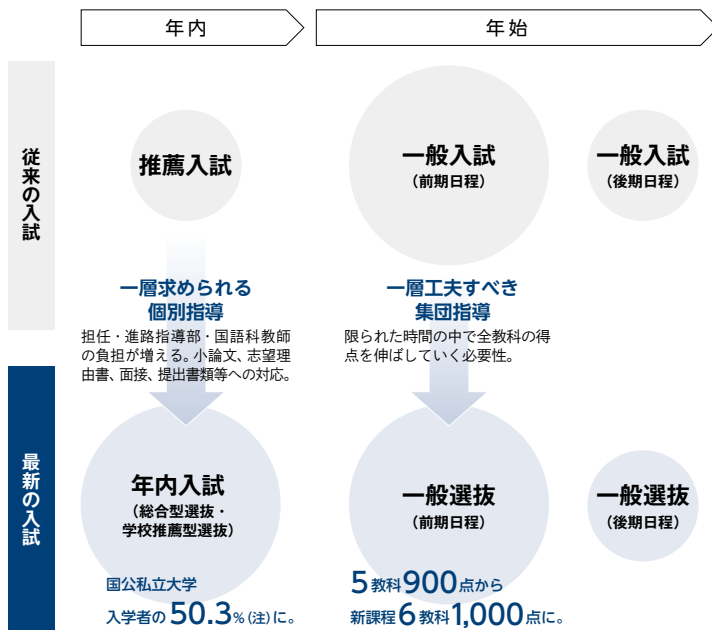
■ 指定校型の学校推薦型選抜を希望する生徒の志望校決定状況



※スタディーサポート 2021 年度 2 年生 2 回の結果。

図4 年内入試の支援が拡大する分、指導の負担も増加

■ 入試指導のボリュームのイメージ



(注) 値は「一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者の合計」に対する各選抜の入学者の割合。

※文部科学省「国公立大学入学選抜実施状況」を基にベネッセ教育情報センターが作図。



進路指導体制の見直しを。担任に負荷が偏るケースも

谷本 年内入試の拡大によって、各校は進路指導体制の見直しを迫られています。例えば、大学入学共通テストで5教科を受験させ、後期日程まで志望校を諦めさせない指導が基本だった学校も、今後は年内入試志望者の支援が一層求められる可能性があります。そうなると、志望理由書や面接などで表現する「マイ・ストーリー」は生徒一人ひとりで異なるため、個別支援が必要となります(図4)。担任などの特定の教師に負担が偏らないような体制の整備も必要となるでしょう。

沖村 私は担当教科の地理歴史科に関する分野への進学を希望する生徒の支援はできますが、それ以外は支援が難しい場合もあります。そうした点でも、学校全体での支援体制が必要ですね。

谷本 生徒の進路意識の面でも気にな

るデータがあります。指定校型の学校推薦型選抜を希望する2年生の約5割が、志望校が未定でした(図5)。

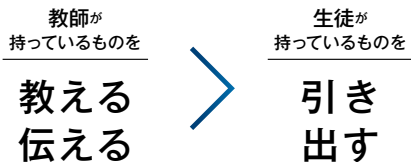
沖村 年内入試では「マイ・ストーリー」を語ることが求められることを早期に生徒に伝え、安易な進路選択をさせないようにしています。生徒によって目指す方向性や自己理解の解像度は異なりますから、支援の方法も1つではありません。私は生徒一人ひとりと対話をしながら、一緒に生徒の志向や将来像を掘り下げていきます。

加藤 私も同じです。生徒が「マイ・ストーリー」を語れるようになるまでには時間がかかりますが、生徒が自分の学びの経験と未来をつなげるためには必要なプロセスです。生徒との対話を通じて、「一緒に「マイ・ストーリー」をつくり上げることを大切にしています。

後藤 本校の探究学習では、生徒が自分の関心のあるテーマについて、様々な学問や文献からアプローチして考察を深めていくようにするとともに、その探究が自分のキャリアにどうつながるのかも考えるよう、生徒に伝えています。そうした活動を通して志向と将来がつながり、「マイ・ストーリー」を構築することができれば、生徒は自分のやりたいことにこだわりを持てるようになるのだと思います。

図7 教師に求められる「引き出す」力

■ これからの指導に求められる教師の姿勢



入試の多様化による課題は、情報を「教える・伝える」ことだけではなく、生徒の希望進路や自主性を「引き出す」こと。

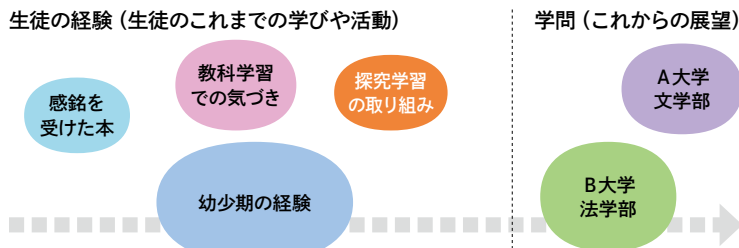


富田 生徒の「マイ・ストーリー」づくりをどう支援すればよいのかを考えるために、「マイ・ストーリー」の状態を図式化しました(図6)。例えば、幼少期の経験を起点に語られた志望動機が、その経験と志望校のつながりが不明瞭であるがために、説得力に欠ける場合があります。それは、幼少期の経験の中で印象に残っていることを断片的に回想して、志望学問に後づけされているような志望動機です。一方、「マイ・ストーリー」を説得力を持って語れる生徒は、自身の関心や興味といった自分の軸をベースにして、それまでの学びや活動とを結びつけて志望動機を語れていると考えます。

後藤 本校では生徒に、探究学習と自分のキャリアを結びつける視点を意識させています。そのためにまず、マイ

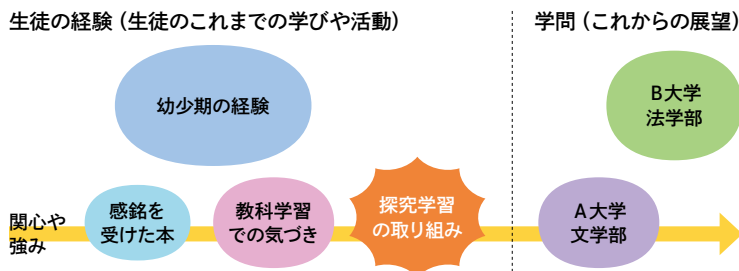
図6 自分の軸に基づき、経験や志向を整理する

■ 「マイ・ストーリー」になっていない状態(例)



幼少期の経験から法学部を志望し、志望動機も幼少期の経験を踏まえて語っていたが、その経験と志望校のつながりが薄く、説得力に欠けている。

■ 「マイ・ストーリー」になっている状態(例)



内面を掘り下げると、自分の関心や強みといった軸が明確に。そして、その軸を基に自分の経験や志向を整理すると、感銘を受けた本や教科学習での気づき、探究学習の取り組みが結びつき、大学で学びたい学問は文学部にあると判明。それらを踏まえると、説得力を持って志望動機を語れるように。

自分の軸を持って、経験や志向の関係性を整理



沖村 生徒が「マイ・ストーリー」を語れるようになるためには、教師が問いかけて、生徒が持っているものを引き出すことが一層大事になりますね。これからの教師には、「ティーチング」以上に「ファシリテーション」の力が求められる、生徒と一緒に探究していく姿勢が必要だと、強く感じています。

谷本 入試の多様化による進路指導上の課題は、生徒に情報を「教える・伝える」ことではないかと弊社では想定していました。しかし、それ以上に、生徒の希望進路や自主性を「引き出す」ことに腐心しているという声が多く寄せられていました(図7)。







富田 生徒の「マイ・ストーリー」づくりをどう支援すればよいのかを考えるために、「マイ・ストーリー」の状態を図式化しました(図6)。例えば、幼少期の経験を起点に語られた志望動機が、その経験と志望校のつながりが不明瞭であるがために、説得力に欠ける場合があります。それは、幼少期の経験の中で印象に残っていることを断片的に回想して、志望学問に後づけされているような志望動機です。一方、「マイ・ストーリー」を説得力を持って語れる生徒は、自身の関心や興味といった自分の軸をベースにして、それまでの学びや活動とを結びつけて志望動機を語れていると考えます。

加藤 本校の生徒も同じような状況です。そこで、自分の内面を掘り上げるための方法を教えています。例えば、1つのキーワードを挙げて、「〇〇とは何か」「なぜ〇〇なのか」などの6種類の問いを立て、答えるという方法です。自分についての問いを立て、その答えを考えることを通じて自分の内面を深め、自分の軸を見いだしていきます。

加藤 本校の生徒も同じような状況です。そこで、自分の内面を掘り上げるための方法を教えています。例えば、1つのキーワードを挙げて、「〇〇とは何か」「なぜ〇〇なのか」などの6種類の問いを立て、答えるという方法です。自分についての問いを立て、その答えを考えることを通じて自分の内面を深め、自分の軸を見いだしていきます。

学校・生徒の状況によって異なる教師の役割

希望進路タイプ別 生徒の課題と目指す姿、教師の役割

<p>1</p> <p>国公立大学を 一般選抜・ 年内入試で 目指す生徒が多い 学校のケース</p>	<p>生徒 BEFORE</p>  <p>一般選抜と年内入試の両にら みの状況に対し、安易に志望 を下げてしまう姿勢から</p>	<p>学校現場で よく聞くお声</p> <p>●志望校へのこだわりがなく、教師・保護者の 認める大学へという志向は強い。</p>	<p>生徒 AFTER</p>  <p>希望する進路実現のために 学びに向かう姿勢に。</p>
<p>教師の役割は 入試形式に左右されない志望動機づくり。年内入試は手段の1つ</p>			
<p>2</p> <p>国公立大学を 年内入試で目指す 生徒が多い 学校のケース</p>	<p>生徒 BEFORE</p>  <p>拡大した年内入試に対して安 易な進路選択を行う姿勢から</p>	<p>学校現場で よく聞くお声</p> <p>●進路選択についての問いかけを工夫しても、 生徒の反応が薄い。大学選択は「行きたい」よ り「入れる」。指定校や総合型での選択となる。</p>	<p>生徒 AFTER</p>  <p>自分が生かせる志望先を探索・研究し、こだわりを持った 進路選択ができる状態に。</p>
<p>教師の役割は 「こだわり進路」の醸成で、進学後の後悔の回避を</p>			
<p>3</p> <p>大学・専門学校・ 就職など、 生徒の希望進路が 多様な学校のケース</p>	<p>生徒 BEFORE</p>  <p>これまでの経験によって自己 肯定感が低い状態から</p>	<p>学校現場で よく聞くお声</p> <p>●生徒の基礎学力と自己肯定感を高めたい。「や ればできる」を実感させたい。</p>	<p>生徒 AFTER</p>  <p>自分自身の可能性に気づき、 進路・学習に前向きになれる 状態に。</p>
<p>教師の役割は 積極評価で、生徒の自己肯定感を高め続ける</p>			



生徒の見えない部分を 引き出し、今後を考えさせる

富田 自校にどのタイプの進路選択をする生徒が多いのかによって、学校の課題は異なり、教師の役割も変わると想定されます(図8)。先生方は、どのような役割を特に意識されていますか。

沖村 図8の③に近い本校では、希望進路に向かう意欲を高めるため、まずは生徒に自信を持たせようと考えました。そこで、育成を目指す6つの非認知能力を設定し、その到達度を可視化して、褒めて伸ばす指導に力を入れています。教科学力とは異なる観点で多面的に評価することで、生徒に自分の可能性に気づき、進路に前向きになっ

てほしいと思っています。

後藤 図8の①に近い本校では、生徒本人が気づいていない視点に気づかせたり、視野を広げられるように働きかけたりして、自分のこだわりを引き出すことに努めています。例えば、本校が10分間の午睡の時間を設けていることを受けて、睡眠をテーマに自分の関心を掘り下げる活動を行いました。大学で睡眠を研究したいといった生徒もいれば、健康に関心を持って看護系学部を志望した生徒がいたり、睡眠の分析からデータサイエンスに関心を持った生徒がいたり、生徒たちの関心は1つのテーマから様々に広がっていきま

加藤 生徒一人ひとりが持つ潜在的な関心や疑問を顕在化させて、取り組みたいことを考えさせることは、生徒をずっと見取っている教師だからこそ果たせる役割ではないでしょうか。本校の有志の生徒で海岸の清掃活動をした際、ある生徒が風力発電の騒音に疑問を持ち、魚と振動の関係を研究しました。別の生徒は、海岸で拾った海藻を使って光合成について調べ、また別の生徒は、捨てられている衣類を問題視し、自然に還る繊維の開発に挑みました。いずれも清掃活動中に出てきた生徒のちょっとした発言を拾い、生徒とやり取りをしながら疑問を引き出したことが、探究に結びつきました。

生徒の「マイ・ストーリー」づくりを支援する3校の実践を、次ページから詳しく紹介

熊本県立 宇土中学校・宇土高校

詳しくは、P.16～18

実践1 全教科で「問い」を起点とした授業を行い、生徒が自ら問いを立てる力を育む。

実践2 探究学習で行うプレゼンテーションなどの活動を、年内入試の対策と結びつけて実施する。

設立 1920（大正9）年

形態 全日制／普通科／共学

生徒数 1学年約240人（高校）

2022年度卒業生進路実績 国公立大は、名古屋大、岡山大、九州工業大、九州大、熊本大などに54人が合格。私立大は、東京理科大、同志社大、立命館大などに延べ304人が合格。海外大学は、台湾・静宜大などに2人が合格。

広島県・私立 広島桜が丘高校

詳しくは、P.13～15

実践1 「自考自創」のための6つのマインドを設定。各教科の単元末にそれらを自己評価し、自己肯定感を高める場を設ける。

実践2 6つのマインドを発揮した生徒について記入するシートを運用。各教師が入力して共有し、生徒を褒める。

設立 1963（昭和38）年

形態 全日制／普通科／共学

生徒数 1学年約240人

2022年度卒業生進路実績 4年制大は、京都産業大、関西大、神戸親和、広島経済大、広島工業大、広島国際大、広島修道大、安田女子大などに延べ39人が合格。短大・専門学校進学75人。就職66人。

東京都・私立 トキワ松学園中学校高校

詳しくは、P.10～12

実践1 高校1年次に学校設定科目「思考と表現」で、論理的思考力・表現力を育成し、生徒が自分の関心を見いだす活動を行う。

実践2 担任を中心に、教師と生徒が対話を丁寧に繰り返し、生徒が自分の関心や活動を進路につなげられるように後押しする。

設立 1916（大正5）年

形態 全日制／普通科／女子校

生徒数 1学年約130人

2022年度卒業生進路実績 4年制大は、青山学院大、学習院大、慶應義塾大、多摩美術大、中央大、東京造形大、日本女子大、法政大、武蔵野美術大、明治大、立教大などに延べ137人が合格。短大・専門学校進学9人。

振り返ることで経験に 意味を見いだし、軸が定まる

谷本 先生方のお話から、「マイ・ストーリー」づくりの支援として、教師が生徒の内面から関心やこだわり感などを「引き出す」ことの重要性を感じました。

加藤 教師がすべきこととして、私は「結ぶ」ことも大切にしています。生徒同士の探究、企業や大学など、生徒を他者や社会と結ぶことで、それまでにはなかった視点を得て自分の世界を広げ、「マイ・ストーリー」づくりにつながるからです。自然に還る繊維の開発に取り組んだ生徒は実験を重ね、稲わらを用いて繊維をつくりました。次の段階の実用化には企業が必要だと助言すると、自らアパレル企業60社以上に連絡し、その結果、ある企業から資金提供を受け、実用化に向けた研究ができました。生徒はその経験を基に、大学では循環型地捨地消システム構築について研究したいと「マイ・ストーリー」を語り、第1志望校に総合型選抜で合格しました。

後藤 挑戦し、それを振り返って価値づけすることを繰り返すうちに、経験に意味を見いだして、自分の軸が定まっていくのではないのでしょうか。本

校の生徒も、1年次は自分の志向や関心が曖昧ですが、探究学習などで自分で問いを立て、追究し、その成果を発表して他者から評価を受け、改善するといったサイクルを繰り返すうちに、どのテーマでもマインドマップが書ける、つまり自分の軸を持ちます。

富田 進路を自分の意志で選択するための弊社の「進路達成プログラム」（*3）に取り組む生徒の様子を見ても、生徒はまず、自分の軸を基にした志望動機が語れないという壁にぶつかります。その状態から、適性診断や他者の視点を通じて自己理解を深めるトレーニングなどを行い、大学などについての多くの情報を得てから志望動機を表現してみることで、生徒は徐々に「マイ・ストーリー」を語れるようになります。

沖村 皆さんのお話から、アウトプットの大切さが分かります。私は担当する歴史の授業で、歴史的事象を知らない人に説明するプリントを作成する。パフォーマンス課題を出しています。多くの生徒が楽しく、前向きに課題に取り組む姿を見て、問いの工夫次第で自分の可能性に気づかせ、進路や学習に前向きにさせることができると感じています。そして、そうして身につけた自分で学ぶ力が、自分の人生を創造することにつながるのだと思っています。

*3「自分の軸を持った進路選択」の達成を支援するための、ベネッセの進路学習教材。生徒それぞれが大切にしている意識や行動についての診断結果を基に、大学などの情報を提供する無料プログラム。「進路達成プログラム」の詳細は、ベネッセハイスクールオンラインで紹介。ログインにはIDとPWが必要。
https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/info/shinro-pgm/index.html

1年次から学校設定科目や対話で 関心を掘り起こし、表現力も育む

東京都・私立トキワ松学園中学校高校

自分の関心を突き詰め、自分の考えを表現する力を鍛える学校設定科目「思考と表現」を1年次に実施。関心の喚起につながる対話や、生徒を学校外と「結ぶ」ことを通じて、生徒の「マイ・ストーリー」づくりを支える。



探究学習を頑張った生徒ほど 年内入試を希望

中高一貫の女子校である東京都・私立トキワ松学園中学校高校は、2014年度から「探究女子」をキャッチフレーズに、自ら探究学習を進められる生徒の育成に力を入れている。同校では以前から、各教科の授業において、「自分の興味・関心を追究する」、「自ら調べて自分の考えを発表する」といった探究的な活動に取り組んできた。それをさらに充実させようと、16年度から中学1年次に、18年度から高校1年次に週1時間ずつ、学校設定科目「思考と表現」を設置。すべての学習の土台となる論理的思考力や表現力、調査スキルなどの指導を体系的に行っている。

加えて、日常的に教師が生徒に声をかけ、対話から素朴な疑問を引き出し、問いに結びつけるようにしたところ、生徒は課外活動で探究学習に熱心に取

り進むようになった。「稲わらを利用した新繊維の開発」「強振動と急激な水温変化が及ぼす金魚損傷の影響」といった研究や、子どもの国際交流の支援など、探究テーマは多岐にわたる。

探究学習の深まりに伴い、年内入試の希望者が増加。22年度の高校3年生の特進クラスでは、年内入試の受験者数がクラスの3分の2に上った。同クラスの担任を務めた進路指導部長の加藤美恵子先生は、次のように語る。

「探究学習で自分の疑問や好きなことを突き詰めていった結果、生徒は将来やりたいことを見だし、それがおのずと志望校選択に結びついていきました。そして、大学調べをする中で、志望校が年内入試を実施していることを知り、『自分の頑張りを生かして志望校に挑戦したい』、『探究学習の成果を大学に見てもらいたい』と、年内入試を希望する生徒が多く現れました」

加藤先生が前回高校3年生の担任を務めた7年前は、年内入試の受験者数はクラスの3分の1だった。年内入試を実施する大学数の増加の影響もあり、ここ数年、年内入試の受験者が増えていると、田村直宏校長は語る。

「大学が求める力と本校が培ってきた力が合致してきたことが、本校で年内入試の受験者が増えている要因の1



校長
田村直宏
たむら・なおひろ
同校に赴任して3年目。



進路指導部長
加藤美恵子
かとう・みえこ
同校に赴任して28年目。探究プロジェクト。国語科。



学力向上推進部
菅原孝宏
すがわら・たかひろ
同校に赴任して13年目。探究プロジェクト。2学年担任。理科(物理)。



「思考と表現」担当、司書教諭
勝見浩代
かつみ・ひろよ
同校に赴任して34年目。教務部。国語科。



「思考と表現」担当、司書教諭
小澤慶子
おさわ・けいこ
同校に赴任して23年目。広報部。社会科。

つだと考えています。探究学習での学びと成果を基にした「マイ・ストーリー」を表現することで、一般選抜では合格が難しい大学に合格した生徒は何人もいます。探究学習と年内入試への挑戦が、生徒の未来を大きく拓いています」

実践 1

高校1年次
学校設定科目
「思考と表現」

関心を広げ、深めながら
表現力を鍛える

高校1年次の「思考と表現」では、講読や文章表現、調査、論文作成、発表などのスキルを、実践課題を通じて学んでいく(図1)。例えば、1学期の後半に取り組む読書感想文では、ワークシート、下書き、清書と、1冊で3回のアウトプットを行う(図2)。授業を担当する司書教諭の勝見浩代先生と小澤慶子先生がその都度、誤字・脱字や表現の誤用などを添削。生徒の考えが伝わる文章になっていなければ、それも率直に指摘し、生徒が本当に伝えたいことを追究させている。

「本選びから主題に対する自分の考えに至るまで、生徒は自分の関心を突き詰めていきます。そうした過程を本科目で繰り返し経験することが、将来の目標や自分の軸を見いだすきっかけになっています」(小澤先生)

1年次の夏季休業時には、希望進路に関する新書を読み、レポートを書く進路学習の課題に取り組む。新書選びに迷う生徒には、司書教諭が伴走する。

「何に関心があるの?」「建築です」「造る方? 見る方?」などと生徒とやり取りしながら生徒の関心を探り、それに合いそうな本を数冊挙げます。そして、目次と最初の数ページを読んでもみて、1冊読み通せそうな本を選ぶよう助言し、最終的には生徒自身に読む本を選ばせています」(勝見先生)

図書室は、各教科の探究的な活動で使う資料のよりどころにもなっている。同科目を通じて生徒の志向を把握している勝見先生と小澤先生は、生徒からの相談に、「前にこう書いていたよね。この本が探究につながるかも」と、生徒の関心に応じた助言をしている。

そのように、自分の関心に基づいて講読を重ね、レポートなどを書くことで、希望進路の分野で使われる用語が身につく。自分の考えを適切な語彙を用いて表現できるようになる。

「生徒は本科目の課題の添削を通じて、自分と他者の考えを混同しないことや、事実を要約してから自分の考えを書くことなどを習得します。3年次の志望理由書や小論文の作成時に、その成果が発揮されます」(加藤先生)

図2 読書感想文作成の指導概要

〈作成の進め方〉

- 1 本選び 司書教諭が用意した課題図書50タイトル以上の中から、生徒自身で読む本を選ぶ。
- 2 ワークシート 印象に残った場面(感動、共感、反感、疑問など)とその理由、主題と主題に対する自分の考えなどを書く。同シートが感想文の土台となる。
- 3 下書き 司書教諭によるワークシートの添削結果も踏まえて、「本の内容」「主題と自分の意見」「まとめ(自分はどうしたいか)」の3パートに分けて書く。

小澤先生「生徒は、何事に対しても『すごい』を使いがちで、自分の意見を他者に伝えるように表現するのが苦手です。添削では、例えば『すごい』をどういった意味で使っているのかなどを問いかけてます」

- 4 清書 下書きの添削結果を踏まえて、800字以内で仕上げる。

〈学習評価〉

- 2~4 では、生徒はルーブリックを用いて自己評価を行う。教師も添削後に同じルーブリックを用いて評価をつけ、生徒に返却する。

勝見先生「形成的評価として、自分の力を認識できるようにしています。生徒には、『CならB、BならAと、1つでもよいから上を目指そう』と声をかけています」

● 読書感想文のルーブリック(抜粋)

		A	B
文章	文章	主語・述語の不一致、文意が通らない文章がない	主語・述語の不一致、文意が通らない文章がある
	論理的な文章表現	論旨が一貫している(矛盾がない)	論旨が一貫していないところがある(矛盾がある)

※学校資料を基に編集部で作成。

図1 高校1年次「思考と表現」の主な学習内容

読書感想文	主題を意識してテキストを読む方法を学ぶ。読書感想文に書くべき内容と、その順序を考えることを通じて、論理的な文章展開について学ぶ。
進路を考える本	夏季休業中の進路学習の課題に向け、進路に関する新書を選ぶ。
ブックレポート	著者の考えを読み取り、自分の主張を確立した上でブックレポートを作成する。
SDGs 探究レポート	各自でSDGsに関するテーマを設定し、調べ学習を行う。根拠のある資料を基に結論を導き出し、レポートにまとめる(レポートの書き方の基礎を学ぶ)。グループディスカッションを通じて、個別の課題についての理解を深める。

ほかに、事典や新聞の縮刷版の使い方、インターネット検索の留意点などに関するスタディスキルを学び、その実践として、新聞の社説の要約を行う。定期考査はなく、提出物と授業に取り組む態度などで評価する。

※学校資料を基に編集部で作成。

注目

動いている図書室

同校の図書室は、年間約1,500冊を購入。廃棄できない書籍かどうかを慎重に検討し、蔵書を入れ替えている。全教師が担当教科の購入候補の書籍を検討し、購入の可否を決めている。「探究学習でこのテーマに取り組んでいる生徒がいる」「授業で使う」など、生徒の学びに合った書籍をそろえることを心がけている。

実践 2

生徒の活動と進路を対話で結ぶ

教師が連携して生徒を把握し、対話につなげる

同校の生徒と教師の距離は近く、普段からよく話をする。その際に教師は生徒の関心を把握し、探究学習や志望校選択のきっかけとなる材料を提供する。また、図書室に保管されている「思考と表現」での成果物を見たり、生徒個々の貸し出し履歴から各教科や探究学習で活用した書籍を確認したりして、話の糸口を探ると、学力向上推進部の菅原孝宏先生は語る。

「担任は、各教科担当の教師との対話を通じてそれぞれの授業で生徒が示した関心を捉えて、どのような言葉を生徒にかければよいかを考えます。生徒の『マイ・ストーリー』づくりを中心に寄り添うのは担任ですが、担任が必要とする情報は、学校全体で連携を取って共有しています」

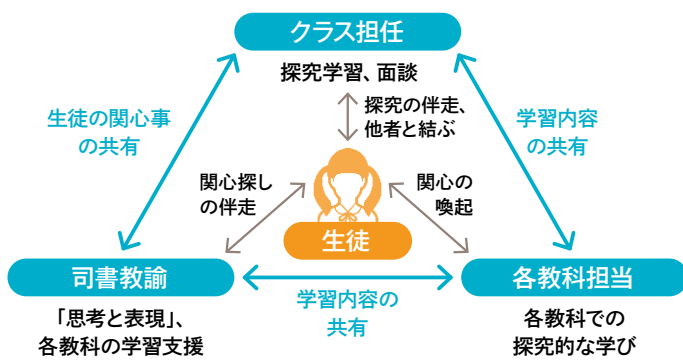
また、生徒との対話の前段階として、

信頼関係の構築も重視している。

「学問の本質を伝える授業をすることに加えて、面談ではじっくり生徒の話を聞きます。学校行事などで生徒の多様な面を捉えて褒めることも大切にしています」(菅原先生)

生徒を他者や社会と結び、志望校選択につなげることに力を入れていく。看護学部志望だったある生徒は、救急医療や高齢者看護など、大学ごとに特色があることを知り、志望校選択に悩んでいた。その生徒が子ども食堂

図3 「マイ・ストーリー」づくりの支援体制



※取材を基に編集部で作成。

展望

社会人の支援も得ながら探究学習を深化。教科指導も強化し、志望校の幅を広げたい

課外活動が中心だった探究学習は、22年度から、「総合的な探究の時間」で行っている。高校1年次は週2時間で、連携先の6つの企業の研究や、企業から出された課題に取り組み。高校2年次は週3時間で、人文科学・社会科学・自然科学・美術デザインの4つのゼミに分かれて探究学習を行う。専門的なテーマでは、外部の社会人の支援も得て、探究を深めていく。さらに、教科指導を強化して教科学力をより一層向上させ、国公立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜の受験につなげたいと考えている。

「年内入試の受験者数の増加は喜ばしいことですが、一方で、丁寧な添削指導は時間を要するため、指導体制の構築も必要です。学校全体で支援する体制や方法を模索していきます」(田村校長)

の活動に取り組んでいたことから、田村校長が小児がんの子どもの支援ボランティアを紹介。生徒は、最終的に小児医療に力を入れる大学を選んだ。

「探究テーマが志望校選択に直結する生徒もいますが、多くの活動をしていても、自分の関心の軸を見いだせない生徒もいます。そうした生徒に必要なのは、他者の存在です。コンクールに出場して評価を受けたり、大学教員や地域の人など、学校外の人と話したりする中で、自分はこれからどうしたいのかを生徒はおのずと考えます。自分の内面を見つめ、自己との対

話を深めていく先に、自分が将来やりたいことが見えてくるのだと思います」(加藤先生)

3年次の志望校を絞り込む過程では、担任は入試日程を考慮しながら生徒個々に声をかけ、年内入試の準備を始める。

「その頃には『マイ・ストーリー』の軸はできているので、後はそれをいかに表現するかが重要になります。『思考と表現』で改善のためには添削が必要なことだと理解しているため、生徒はくじけず、何度でも志望理由書を書き直してきます」(加藤先生)

「桜が丘6マインド」を軸に、生徒のよさや成長を教師が語る

広島県・私立広島桜が丘高校

広島県・私立広島桜が丘高校では、生徒の非認知能力「桜が丘6マインド」を見取り、自己肯定感の醸成を図ることで、年内入試への挑戦を支援している。



「自分にもできる」と
気づき始めた生徒たち

広島県・私立広島桜が丘高校は、2023年度から「スーパー進路多様校」を標榜し、生徒一人ひとりの希望進路をかなえる学校づくりに取り組んでいる。その中で教師たちが目指すのが、スクールポリシー「自考自創」の実現だと、桐原琢副校長は語る。

「すべての生徒が自ら考え、自らを創ることで、それぞれの希望進路へ踏み出す学校を目指しています。ただし、『自考自創しましょう』という言葉が教師が繰り返すだけでは、そうした生徒は育ちません。そこで、自考自創のために必要な資質・能力を『桜が丘6マインド』として明確にした上で（図1）、その育成のために必要な教育活動を整理しました」

同校には、中学校で勉強に苦手意識を持った生徒が少なからずいる。これ

図1 スクールポリシー「自考自創」を実現するために必要な資質・能力「桜が丘6マインド」

自信 (じ)	自分を信じ勇気を持って挑戦するマインド
向上 (こ)	成長したいと願い自ら行動するマインド
探究 (う)	興味関心を深く突き詰めるマインド
受容 (じ)	他者を理解し受け入れるマインド
疎通 (そ)	積極的にコミュニケーションを図るマインド
協調・協働 (う)	仲間と共に (のために) 事を成すマインド

※学校資料を基に編集部で作成。

までは、そうした生徒は「自分に進学は無理だ」と早々に進路の選択肢を狭めてしまう傾向にあった。教師も生徒のそのような考えを仕方のないものとして受け入れていた。しかし15年度大入試において、当時3学年担任を務めた沖村将彦先生のクラスから、年内入試で同校初の国公立大学現役合格者が3人出たことで、「自分も高い目標を実現したい」という機運が後輩の生徒たちの中で高まったという。「『自分には進学は無理』という生徒



1 学年主任
沖村将彦
おきむら・なほひこ
同校に赴任して18年目。進路指導部。地理歴史・公民科。



副校長
桐原 琢
きりはら・たくま
同校に赴任して1年目。

の考えを変えたいと思いました。年内入試では、志望理田書などで、高校生活を通じて自分が何者になったのか、大学で何を学び、社会で何をしたいのかが問われます。生徒には、将来やりたいことを進学後に始めるのではなく、小さなことでもよいから今始めよう」と声をかけ、学校行事や生徒会活動などに積極的に取り組むことを勧めました」

未来と今をつなげて「マイ・ストーリー」をつくった生徒が年内入試で成果を上げたことで、数値化しにくい非認知能力にも目を向けて生徒の日々の成長を認め、自己肯定感を育むことの重要性が校内に浸透した。それが23年度からの「自考自創」及び「桜が丘6マインド」の周知と、その育成のために必要な教育活動の推進力となっている。

「自分を語る力」を
生徒に育む

生徒のメタ認知を促す
授業改善を推進

同校が掲げる「スーパー進路多様校」とは、生徒の多様な志望を100%実現する学校のことを意味する。そうした学校になるためには、生徒には志望を語る力が、教師には生徒の志望を引き出す力が必要だと、桐原副校長は語る。それは「マイ・ストーリー」が、生徒と教師双方の力でつくり上げていくものであるという考えからだ。

「進路についての答えを持っているのは、教師ではなく生徒です。高校入學段階では自分に自信が持てない生徒も少なからずいますが、そうした生徒にも、『こんな進路を歩きたい。そのためには、今をこのように生きたい』と、自分の今とこれからを結びつけて語れる力を育まなければなりません」生徒に自分を語る力を育むためにはメタ認知が必要だと考える桐原副校長

は、23年度からの学校改革の一環として、自考自創を実現するために必要な桜が丘6マインドの観点で、生徒が授業や単元ごとに自分を振り返るワークシート(図2)を導入した。

「様々な資質・能力の観点で自分を多角的に振り返れるように、授業も教師による説明一辺倒ではなく、生徒が個人で頑張る時間、グループで考える時間など、多様な活動を盛り込むよう、先生方にも願っています。そして、『あなたの発言は、自分とは違う立場の人のことを理解しようとしたものだね』などと、6マインドを意識して生徒を見取ること、生徒が授業を通じて自分のよさや価値観を認識することができるようになっています」

授業改善が進むことで生徒のメタ認知は確実に促されると、沖村先生も実感している。

「中学校までの経験から『自分は勉強ができない』と思い込んでいた生徒は、非認知能力の視点で自分を振り返ることで、『自分は教科書の内容を覚えるのが苦手なだけで、物事の本質を深く考えることは嫌いではなかった』と自分を捉え直します。学びの楽しさと、学びを通じた自身の変容に気づいた生徒は、向学心が芽生え、やがて進学を選択肢に入れるようになります」

図2 自考自創を実現するために必要な桜が丘6マインドの観点で自分を振り返るワークシート

教科 地理 単元名 歴史総合 ふりかえりシート /年 2組				
総合評価	問1	問2	問3	問4 問5
自信 向上 探索 受容 疎通 協調 下 9	日々のふりかえりシートを見直し、各非認知能力を設定した回数を記入しなさい。また特にどのような場面で意識し、どのような行動を取ることができたか具体的に記述しなさい。	単元を通して、あなたの学ぶ姿勢はどうだったか、客観的に振り返り、良かった点と改善すべき点を具体的に記述しなさい。	問3 単元を通して、あなた自身が自分の意志や判断によって主体的に取り組むことができたことを具体的に記述しなさい。	問4 なぜあなたは問3のように取り組むことができたのですか？あなたのあなたと比べながらその理由を記述しなさい。
問1 7-7-1に取り組み時、教科書を見て理解が利かなくなると感じた。この身に付いた知識を周りに自分から教えることができた。非認知能力の受容を意識し、協調ができて、何片取りの良さは、協力力がパワーアップ課題でも活躍した。単元テストも良い点が取れた。	問2 中学の頃の復習の授業を聞いていて、自分がこの時代に生きていることや、この働いていることが、違う考え方が生かされ、理解が深まった。	問3 色々な苦手を歴史の先生から聞いて、テストや授業を見せると理解が深まった。	問4 成績のために勉強していたけれど、歴史の楽しさを感じ、自分に合った勉強法を見つけ、成績が伸びた。	問5 受容を意識し、思いやり、受容を相手に対して、自分の意見、自分の意見を伝える意見交換の場でも理解が深まった。
評価の観点 A 非認知能力の回数が記入されていて、場面と行動も具体的に記述できている。 B 非認知能力の回数が記入されているが、場面と行動が具体的に記述できていない。 C 非認知能力の回数が記入されているが、場面と行動が記述できていない。 D 非認知能力の回数が記入されていない。	評価の観点 A 単元を通して、新たに気づいた自身の課題について具体的に記述し、自ら成長するために目標していく6マインドを答えなさい。また、どのような行動をずるか具体的に書きなさい。 B 自身の課題・行動・6マインドを意識し、先を見通して具体的に記述できている。 C 自身の課題・行動・6マインドについて、具体的に記述できている。 D 自身の課題・行動・6マインドについて記述してあるが、具体的にない。 E 自身の課題・行動・6マインドに關しても、記述できていない。	評価の観点 A 自身の意志や判断が明確で、内容も具体的に記述できている。 B 自身の意志や判断が明確だが、内容が具体的に記述できていない。 C 自身の意志や判断が明確でない。	評価の観点 A 以前と比べて何が、なぜ変わったのかを明確に記述できている。 B 以前と比べてはいるが、何が、なぜ変わったのかを明確に記述できている。 C 何が変わったのかは記述できているが、なぜ変わったのかは記述できていない。 D 何が変わったのかも記述できていない。	

「何が分かったか・分からなかったか」だけでなく、「自分はどのように学んだか・それはなぜか」を生徒が振り返る。「1人で学ぶのか、ほかの人と話し合うのかを自分で考え、自己決定するような授業を行うことで、生徒が自分らしい学び方、生き方はどのようなものかをメタ認知できるようにします」(桐原副校長)

生徒が「桜が丘6マインド」の観点で自分を振り返っている箇所

※学校資料をそのまま掲載。

図3 教師のための生徒のエピソード記録シート

期間：2023年1月30日～2月5日				
No.	力	誰が？	どんな 場面で？	どうした？
①	<input checked="" type="checkbox"/> 自信 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 受容 <input type="checkbox"/> 疎通 <input checked="" type="checkbox"/> 協調	1年生 A (バドミントン部)	2/4 (土) 広島県 学年別大会 (バドミントン)	前大会は緊張に飲み込まれ1回戦負けだったが、顧問の「大きな声を出せば気持ちも大きくなる」という助言を実践し、自信を持って試合に臨み、ベスト8 (5位) に入った。
②	<input checked="" type="checkbox"/> 自信 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 受容 <input type="checkbox"/> 疎通 <input type="checkbox"/> 協調	3年生 G	1/30 (月) 卒業試験	高3になるまで満点を取ることがなかったが、2学期に日本史Bの試験で初めて満点を取ることができ、その後も継続した努力と徹底した準備をすることで、卒業試験において学年で唯一の満点を取った。
③	<input checked="" type="checkbox"/> 自信 <input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 探究 <input type="checkbox"/> 受容 <input type="checkbox"/> 疎通 <input type="checkbox"/> 協調	3年生 J	1/30 (月) 卒業試験	年度当初は目立たない存在で、クラスの上位ではあるものの、トップを取ることはなかったが、今までで一番クラス平均点が低かった卒業試験においてクラストップと唯一の平均90点以上を達成した。

実際の記録シートは2ページで、10個のエピソードを記入できるようになっている。「10個のエピソードをどれぐらいの時間で記入できるかを試してみることで、自分が日々生徒をどれくらい見取ることができているのかを確認することができます」(桐原副校長)
 ※学校資料を基に編集部で作成。

実践 2

「生徒を語る力」
を
教師に育む

生徒を見取る力を問う
教師のための記録シート

教師が生徒の志望を引き出したり、生徒の現状と課題を整理したりして、「マイ・ストーリー」づくりを支援す

「あなたはこのように語ると、教師が生徒のよいところを語ることは、生徒の自己肯定感を育むだけでなく、自己理解も促します。その生徒のよさ、適した進路を見抜く力が教師には求められます」(沖村先生)

23年度から導入された「生徒のエピソード記録シート」は、自考自創を実現するために必要な校が丘6マインドを手がかりにして、実際にどの生徒が、どんな場面で、どんな行動をしたのかというエピソードを記録するための

ツールである(図3)。

「本シートを記入する時に、生徒の姿をすべに思い出し、具体的な様子を語れるかどうかで、教師が日常的にどのくらい生徒を見取ることができているかをセルフチェックできます。また、記入した内容を教師間でシェアすることで、生徒の見取りを豊かにすることができます」(桐原副校長)

自己肯定感が十分に高まっていない生徒は、「マイ・ストーリー」を他者に語ることを恐れがちだと、沖村先生は言う。だからこそ、どんな夢を語っても笑われることなく、深く生徒を理

解した教師から「あなたはきっと大丈夫だよ」と励ましてもらえるような心理的安全性に満ちた教室をつくりたいと考えている。

「一人ひとりの生徒が必ず持っているそれぞれのよさを教師が把握し、語ることができるようになれば、生徒は堂々と『マイ・ストーリー』を話し始めます。今後、6マインドを手がかりに生徒をしっかりと見取っていくことで、自分を語ることが必要になる年内入試に、生徒が果敢に挑戦できるよう、支援体制を整えていきたいと思えます」(沖村先生)

展望

週5コマの探究学習など、
生徒が自身の成長を自覚する場を拡充

同校では23年度から「総合的な探究の時間」を週5コマに拡充。1年次では「楽しさ」とは何か?」をメインテーマに、e-Sports大会の開催など、プロジェクト型の探究学習を通じて身近な興味・関心の価値に気づかせるとともに、自己有用感を取り戻させることもねらいとしている。2年次以降は、地元・広島県の課題に向き合い、理想の姿を考えさせる予定だ。「探究学習は年内入試で合格するための最大の武器の1つであるという共通認識の下、全教師が探究学習にかかわる体制を整備しました」(桐原副校長)

同校は、進学したいという気持ちを言い出せないまま生徒を卒業させないためにも、生徒が非認知能力の向上を果たせるような場を充実させ、そこでの成長をメタ認知できるように仕組みを構築する考えだ。

探究の学びを軸に、UTO-LOGICを駆使して「問い」を創る力を養う

熊本県立宇土中学校・宇土高校

SSH3 期目を迎え、全校体制でサイエンス人財の育成を図る熊本県立宇土中学校・宇土高校。探究の学びを軸に、生徒の主体性を引き出し、人生 100 年時代のキャリアをデザインさせる実践を紹介する。



探究の学びで育んだ 資質・能力で進路を拓く

2023年度にスーパーサイエンスハイスクール（SSH）3期目を迎えた熊本県立宇土中学校・宇土高校。かつて3年生の1割程度であった年内入試出願者数は、近年は半数に迫る。さらに、18年に同校から、世界の最難関大学の1つとされる米国・ミネルバ大学に合格者が九州で初めて出て以来海外大学合格者が途切れることはない。SSHの高度な科学研究への取り組みは、生徒の進路の選択肢を広げているが、多彩な進路を実現する要因はほかにもある。それは、全教科で探究の「問い」を創る授業に挑戦していることだと、横川修校長は語る。

「探究とは、日常の気づき、自然の不思議、社会の問題などについて、生徒が問いを立て、その解明や解決のために協働して知恵を出し、行動し、試

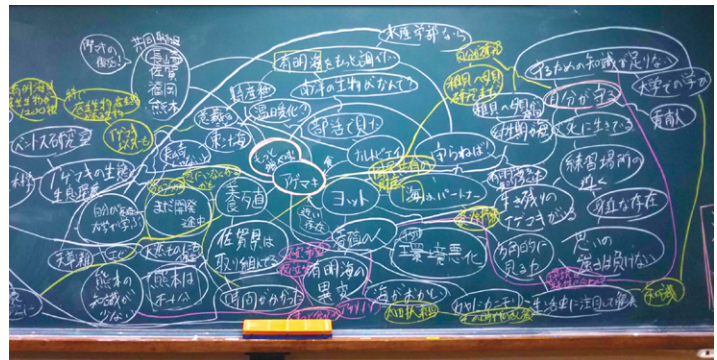


写真 後藤先生が生徒と一緒に描いたマインドマップ。探究学習での様々な気づきや出会いを振り返る中で、「これがやりたかったんだ！」と気づく生徒は少なくない。

行錯誤することであり、世界を自分事にする営みです。本校では、授業の中で生徒が探究の『問い』を創り、学びを自分事に行っています。そうして、日々の授業でも新たな興味・関心を見つけ、学校内外の探究の学びで育んだ資質・能力を生かし、年内入試挑戦や海外大学進学など、各々がキャリアをデザインし、進路実現を果たしています」

生徒は、「問い」を創る力を生かして、進路選択のキーとなる出来事や、これ

までの活動を通じた自らの成長をマインドマップ（写真）などを使って整理し、「マイ・ストーリー」を語れるようになっていくと、探究部長で進路指導主事の後藤裕市先生は語る。

「探究学習のプロセスや日々の授業での気づき、学びなどを振り返ることで自分の軸を見つけ、高校卒業後の人生で向き合う『問い』を生徒が見つけられるように支援することが、私たちの進路指導です」



校長
横川修
よこがわ・おさむ
同校に赴任して2年目。



探究部長・進路指導主事・指導教諭
後藤裕市
ごとう・ゆういち
同校に赴任して12年目。理科（生物）。



教務主任・指導教諭
奥田和秀
おくた・かずひで
同校に赴任して12年目。地理歴史・公民科（日本史）。



探究部企画班長・指導教諭
梶尾滝宏
かじお・たきひろ
同校に赴任して18年目。理科（物理）。

実践 1

全教科での
探究の「問い」を
創る授業

「問い」を立てる力が
キャリアを描く力になる

同校では、全教科で探究の「問い」を創る授業に取り組んでいる。教務主任の奥田和秀先生は、日頃から「問い」の視点を持って授業に臨むことで、生徒に「主体的に学習に取り組む態度」が醸成され、ひいてはキャリアを描く土壌が育まれると語る。

「例えば日本史の授業で、『旧石器時代の日本人』という授業タイトルを『日本人はどこから来たのか?』と、問いの形に変えるだけで、生徒の学びへの姿勢は変わります。そのような『問い』を単元の冒頭だけでなく、1コマの授業の中で教師と生徒双方が立てていきます」

探究の「問い」を創る授業は、反転学習を取り入れ、「問い」を鍵にした3つの活動で構成される(図1)。「問い」をつかむ」では、教師が提示した「問

い」に引き合い、知識を整理する。「問い」に挑む」では、論文などに基づいた「問い」を教師が提示し、話し合いなどを通じて思考力などを磨く。「問い」を創る」では、それまでの学びを踏まえて生徒が新たな「問い」を創る。

「授業の最後の『問い』創りは、本校のSSHで育成を目指す資質・能力『LOGIC』(図2)のいずれかを切り口にして取り組みます。毎日の問い創りを見守る中で、私たち教師は『いつもは論理性を重視した問いなので、今日は創造性を重視した問いを創ってみよう』などと、生徒に声をかけています」(後藤先生)

生徒は、「問い」創りなどの度に接するルーブリックやチェックリスト(図2)によって、「LOGIC」を常に意識する。また教師は、「問い」創りを通じて「LOGIC」の育成を図る授業を行うために、それぞれの教師の理想、生徒に育みたい資質・能力を整理し、実践を共有する教員研修を例年4月に実施している(図3)。

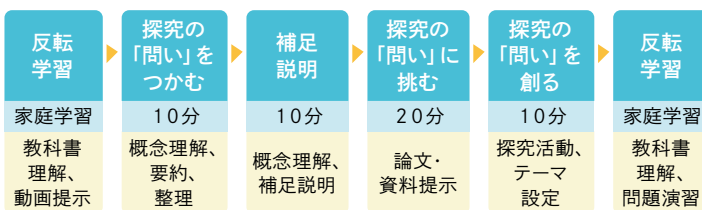
日々の授業で何を知り、何が分かったのか。次は何を探究したいのか……。そうして学びを振り返り、次の課題の設定につながる過程を日々の授業で体験することも、生徒の「マイ・ストーリー」を語る力につながっている。

図3 資質・能力「LOGIC」を育む授業を行うための教員研修プログラム

時間	内容	取り組み・ICT活用
0	チェックイン グランドルール確認・共有	<input type="checkbox"/> 座席確認 (教科ごと) <input type="checkbox"/> chromebook
5	ワーク1 理想の授業をイメージする ①【教師目線】○○ができる、 ○○が身につく授業 (5分) ②【生徒目線】□□ができる、 □□が身につく授業 (5分) * 教室空間・生徒の実態・個々のスキルを超えた自由な発想	① スプレッドシートA列から1セルに1コメント入力
15	ワーク2 理想の自学をイメージする ①【教師目線】○○ができる、 ○○が身につく自学 (3分) ②【生徒目線】□□ができる、 □□が身につく自学 (2分) * 授業内でできないこと、自学での取り組みが望ましいこと	② スプレッドシートB列から1セルに1コメント入力 ③ A列は青色、B列は黄色の付せんとしてMiroに添付
20	ワーク3 理想の授業設計をイメージする ① 授業でした方がよいこと、 自学でした方がよいことを整理 ② 授業でしていたが自学です る方が理想的、その逆も可視化	④ フレームに付せんを移動する

※学校資料を基に編集部で作成。

図1 探究の問いを創る授業の流れ



※学校資料を基に編集部で作成。

図2 育成を目指す資質・能力「LOGIC」とチェックリスト



● チェックリスト (Objectivity)

Objectivity (客観性)	
情報の正確性 参考文献の出典を明らかにしたレポートができる	
参考にした図書、文献、新聞記事、ウェブサイトなど、資料の名称を正しく記載できている。(「著書名」「タイトル」「出版年」「ページまたはURL))	<input type="checkbox"/>
信頼度の高い資料(著書、出典、公的ウェブサイト等)から参考文献を活用してレポートを構成することができている。	<input type="checkbox"/>
レポートのどの部分に参考文献を活用しているか、参考文献のどの内容をレポートに活用しているか、レポートを作成する上で表記することができている。	<input type="checkbox"/>

※学校資料を基に編集部で作成。

探究学習の諸活動の充実

探究学習の中で

年入試に必要な力を育む

23年度、同校は進路行事と探究学習の連携を強化するため、分掌改編を実施し、進路指導部を探究部の中に置いた。探究学習の充実と進路を切り拓く力の育成は、密接な関係にあると考えたからだ。科学部顧問として同校の探究学習をリードする梶尾滝宏先生は、「探究学習の活動には、年入試対策に通じるものは多い」と説明する。「本校の生徒は、探究学習を通して年3、4回の発表を経験します。漫然と原稿を読み上げるのではなく、自分が経験した探究学習の素晴らしさを熱く相手に伝えることができれば、ポスターセッションやプレゼンテーションも、年入試での面接やディスカッションなどの練習になります。探究学習を充実させれば、年入試出願時の指導の負担は明らかに軽減します」

探究学習での成長を語る先輩の姿が進路観を刺激

探究学習の発表において、「テーマについて何が分かったか」だけではなく、「探究学習を通して自分はどういう資質・能力を獲得したのか」「学校の学びにどのように取り組めば資質・能力が獲得できるのか」を生徒にしっかりと語らせているのは、特に下級生に探究学習を通じたキャリア形成をイメージさせるためだ。

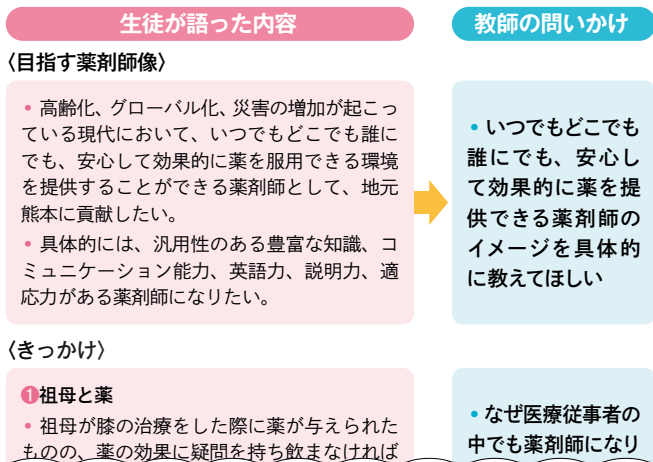
「文系志望だった生徒が、探究学習を通じて理系の世界に興味を持ち、科学者を目指して海外大学に進学する。そんなロールモデルに出会うと、どの生徒も『自分も大きく変わりたい』と思うようになります。学校での学びをどのように進路につなげるかを考える上で、生徒にとって先輩の体験談が何より参考になります」(梶尾先生)

日々の授業での「問い」創りや探究学習を通じて、「自分は何を獲得したのか」「次は何を獲得したいか」をメタ認知する同校の生徒たち。未来を生きる上で必要な資質・能力を育むための教科指導・進路指導の改革を通じて、生徒は着実に「マイ・ストーリー」を描く力を身につけている。

図4 志望理由書の作成過程をデータベースとして保存

- 生徒 A の学習活動の主な内容
 - 1年 ロジックリサーチ「日本 VS 感染症～社会から学ぶ感染症対策～」
 - 1年 プレ課題研究「ストレスマーカーを用いたプラセボ効果の検証」
 - 2年 3年 SS 課題研究「ストレス減少の観点から見たプラセボ効果の証明と応用」
- 生徒 A の主な活動歴
 - 1年3月 ロジックスーパープレゼンテーション・プレ課題研究代表発表
 - 2年7月 構想発表会
 - 2年11月 中間発表会「熊本大学連携・大学職員、本校卒業生を交えたポスターセッション」

● 生徒 A の志望理由書の作成過程



※学校資料を基に編集部で作成。

展望

すべての教師の力、経験を結集し、生徒の「マイ・ストーリー」づくりを支援

年入試出願者の中には、探究学習での学びと、そこでの成長をつまぐ整理できていない生徒ももちろんいる。そうした生徒を支援するために、同校は23年度より、志望理由書の作成段階から3学年団の教師だけでなく、その生徒の過去の探究学習を伴走した教師もかかわるようにした。

また、年入試に出願する生徒と教師のやり取りをテキスト化し、指導のデータベースとして蓄積するようにした(図4)。活動歴だけでなく、「マイ・ストーリー」をつくる「問い」として、教師がどんな言葉を生徒にかけてのかを記録することで、支援のノウハウの共有化を進めている。

自己理解を促すかわり方を考える

教師の共感的なかわりの中で、
生徒は自身の思いを再構築する

富山大学保健管理センター 客員准教授 西村優紀美

「マイ・ストーリー」を生徒自身が語れるようになるためには、教師の日々のかかわりが重要になる。では、どのようなことに留意して、生徒とかわればよいのか。「共感的な対話」をキーに専門家が語った。

1
日常の
接し方

「西村客員准教授からの提言」よりよい生き方・進路を自分で選択するためには、過去の経験を踏まえて、自分の考え方や得意・不得意に向き合う自己理解が欠かせませんが、自分に対して肯定的でなければ、自分を理解しようという気持ちにはなりません。そこで、生徒の自尊心を高めるための有効な手法の1つである「共感的な対話」について紹介します。進路を考える生徒の支援にきつと役に立つと思います。

教師を「対話の対象」と
生徒に認識させる

生徒が自尊心を育み、自己理解を深めていくための対話においては、自分の思いや考えを他者に共有する中



富山大学
保健管理センター
客員准教授
西村優紀美
にしむら・ゆきみ

専門は発達障害児・者に対する「コミュニケーション支援」。一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会理事などを歴任。現在は、石川県立高校スクールカウンセラー、石川県生徒指導・発達障害サポートチーム委員などを務める。

で、「自分のことを分かってもらえた」「そう思ってたよんだ」といった気持ちになるよう、他者の共感が重要で、そうした生徒との共感的な対話が成り立つためには、まずは生徒に教師のことを「対話の対象」として認識してもらわなければなりません。だからこそ、教師は口頭から生徒に声をかけて、日々の出来事や生徒が考えていることを興味を持って聞き、共感する態度を見せる必要があります。

生徒にかける言葉は、「最近、何か元気そうだね!」「部活動の調子はどうなの?」「文化祭の準備は、ほかどつていいる?」など、何気ないひと言で構いません。それに対する生徒の返事を「そうなんだ」「それはいいね」などと肯定的な言葉で受け止め、生徒が話す内容に興味を持っていることを示します。

「へー、○○なんだ」などと生徒が言った内容を繰り返すことも、「ちゃんと聞いているよ」というメッセージになります。もちろん、「それ、詳しく

西村客員准教授が監修した対話のヒント集

『生徒の自己理解を促す共感的な対話』

神奈川県立総合教育センターが製作した冊子『生徒の自己理解を促す共感的な対話』では、学校生活の様々な場面において、教師が生徒と「共感的な対話」を実現できるように、具体的な対話のポイントを紹介している。

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/sodan/leaflet.html>



く教えて」などと、話を広げてもらいましょう。大切なのは、特定の生徒にだけでなく、いろいろな生徒に声をかけることです。誰にでも分け隔てなく声をかける教師の姿を見て、生徒は「この先生と話してみたい」と思うのです。

教師ばかりが話す面談から 生徒自身が語る面談へ

「面談では、生徒の話を書くつもりだったのに、ふと気がつく、自分ばかりが一方的に話していることがよくある」など、面談の理想と現実に悩む教師は少なくない。西村客員准教授は、教師ばかりが話をしてしまう場合は、生徒の話を書くことよりも、教師が自分の考えを伝えることを優先していることが多いと説明する。教師の解釈を前面に出すと、生徒は教師に対して話すことを諦めてしまう。「生徒一人ひとりが、自分とは違う存在であるという前提に立って、生徒の言葉に耳を傾けることが大切です」(西村客員准教授)

- 「今のあなたはこうだ」「こうあるべきだ」などと、教師の解釈を生徒に押しつけていないか？
→生徒自身に現状認識と今後どうしたいのかを語らせる
- ほかの生徒や教師自身の成功体験を一方向的に披露していないか？
→生徒が「先輩はどうしていたのですか？」などと聞いてきた場合は答える

2

面談での 接し方

人生の物語の語り手である 生徒を尊重する

生徒が自分の興味・関心や将来の目標などを整理し、歩むべき進路を明確にしていくために、教師は面談で生徒にどのように接するとよいのでしょうか。

面談で生徒の話を書いていくとい「それなら○○をした方がよい」な

どと具体的な助言をしたくなるものです。しかし、性急に解決策を示すのではなく、生徒の考えや悩みに関心を持って耳を傾け、「あなたはどうしたい？」などと問いかけ、生徒自身に状況や思いを整理させることが大切です。生徒が稚拙な考えを語ったとしても、「あなたはそう思ったんだね」、「あなたを感じたことは分かったよ」といったように、生徒の思いや考えを受け止め、「じゃあ1週間後に、また先生に状況を教えてね」などと、一緒に考え続ける姿勢を示します。

面談に臨む教師にまず求められることは、生徒を人生の物語の語り手・創り手として尊重すること、そして今後どうしていきたいのか、生徒自身の考えを聞くことなのです。

言葉を引き出すことで、 生徒は自分を語る力を得る

とはいえ、生徒の話に「うんうん、そうなんだね」と聞くことだけが共感的な対話ではありません。生徒の話の中で気になったことや分からないことは質問してもよいですし、生徒から問われたら、先生自身の考えを伝えてもよいでしょう。その際は、生徒の考えを受け止めることが大切であり、否定してはいけません。そして、「この生徒は、なぜそう思ったのだろう」と、生徒に関心を持ってさらに話を聞きます。面談の途中で内容を整理することも教師の大切な役割です。その際、「まとめると、こういうことだね」と決めるのではなく、「これまでのところを整理すると、先生はこう理解したのだけど、それでいいかな？」と、生徒に必ず質問するようにします。もし整理の仕方が違っている場合は、生徒は「ここが違います」と指摘することになり、生徒にとって自分の考えを再確認するチャンスとなります。

性急に答えを与えるのではなく、生徒の言葉を待ち、受け止め、引き出すことで、生徒は少しずつ自分を語る力を身につけていきます。

面談力を高める お勧めアクション



逐語録を共有し、 面談を振り返る

面談が上手な先生は必ずどの学校にもいます。面談のスキルを高めるには、そうした先生の、生徒との面談に同席するのが一番です。面談に同席させてもらうことが難しければ、面談でのやり取りを逐語録としてそのまま書き起こしてもらい、それを読んでみるとよいでしょう。同じように、自分の面談を逐語録で振り返ることもお勧めします。自分では傾聴・受容しているつもりだったのに、「○○しないと駄目だよ。そのためにはまず○○から始めて……」などと、自分が答えを提示している時間が多かったと気づくことも少なくないものです。ぜひ、取り組んでみてください。

専門家でもこんなことが……

共感的な対話は意外と難しいものです。私たち専門家でも、逐語録で面談を振り返ると、相手に対して「ここができていませんね」「こうすればよいのですが」といった言い方になっていることがあります。共感的な対話の学問的な意義も理解しているから大丈夫と思わないで、お互いに研鑽を積みたいですね。

年内入試支援

— 引き出し、共に創る「マイ・ストーリー」

3
事例から
考える「その夢は無理」ではなく、
「なぜ、それが夢か」を聞く

自分の適性や学力などとギャップがある志望を語る生徒には、どのように接すればよいか考えてみましょう。

「このままのあなたでは無理だよ」などと否定してしまつと、その後、生徒は自分の考えを話さなくなつてしまつて恐れがあります。かと言って、「いいね、頑張つて！」と励ますだけではよいというものでもありません。

最初に耳を傾けるべきことは、生徒がそうした志望に至つた理由です。「人の命を救いたいから」など、生徒が語つた志望理由をまずは受け止めます。「命を救う」といった、進路を考へる上で大切にしたい思いを生徒と共有することで、志望変更することになつた場合も、「命を救う仕事は、ほかにもあるのではないか」などと、ほかの選択肢を生徒と探ることができるようになります。

越えるべき現実社会の
壁を一緒に確認する

ただし、ほかの選択肢を探し始めるかどうかは、生徒が決断することです。教師が「別の道を探したら？」と志望の変更を勧めてしまつと、生徒にとつて、教師が進路の障壁となつてしまいます。現実として越えなければいけない壁の高さを生徒自身に自覚させ、決断をさせることが重要なのです。

そこで、志望をかなえるためには何をしなければならぬのかを生徒に調べさせ、一緒に確認していきまふ。生徒が壁を越えるための努力を始めるのであればそれを支援し、志望変更を検討したいと考えたのなら、進路を考へる上で大切にしたい思いを生徒と確認しながら、「あなたにふさわしい進路はきっと見つかるよ」と、生徒を応援します。

生徒から進路について調べたことを聞く際には、生徒と同じタイミングで気づきを得たように振る舞います。「先生が言った通り、難関の試験だったでしょう」ではなく、「そうか、そんなに難しい試験なんだね」といった言葉の方が、相手の自尊感情を損ねないというの、大人も同じなのではないでしょうか。

4
対話を通した
生徒の成長生徒自身が思いを
再構築できるようになる

生徒との面談などで話題に上がるテーマは、簡単には答えが出ないものばかりです。生徒は端的な正解を求めがちですが、答えは1つではなく、解釈や選択肢が複数存在することを生徒に理解させることが大切です。そして、面談などで「こうしてみよう」と具体的に策が決まっても、よい意味での「とりあえず」の策であり、「うまくいかなかった時は、あなたが悪いわけではない。別の方法をまた一緒に考えよう」と、再考するチャンスがあることも伝えます。

そうしたかわり続けるうちに、生徒は「ここが疑問だったけれど、こういうふうになってみようと思えます」と、自分の考えを整理・再構築することができるようになります。教師との対話を通して、生徒は自分を語る力を確実に身につけていくのです。

次号から、大きく変化する大学入
試環境で求められる「新進路選択」
についての連載がスタート!

年内入試の募集枠の拡大など、大学入試環境が大きく変化する中で、これからの生徒の進路選択には、どのような支援が必要になるのか。10月号から、その考え方と実践事例を紹介するコーナーの連載をスタートさせます。ご期待ください!

▶ 年内入試の支援に役立つ! 記事のご紹介

『VIEW next』高校版では、教師が生徒理解を深めるための志望校検討会のあり方や、生徒の長所を伝える推薦書の事例、資質・能力の育成を意識したポートフォリオのフォーマットなど、年内入試に役立つ記事をこれまでご紹介してまいりました。それらの記事をまとめたページを、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内につくりました。ぜひ、ご覧ください。

<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article16467/>



主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

総合的な 探究の時間

3年次の論文作成を目標に、
1年次から
論理的思考力を醸成



山梨県立甲府西高校

細倉真美 ほそくら・まみ



同校に赴任して1年目。教務部。
1年次副主任。英語科。

学校概要

◎設立 1902(明治35)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約200人

◎2022年度卒業生進路実績 国公立大は、北海道大、筑波大、お茶の水女子大、東京外国語大、横浜国立大、山梨大、名古屋大、都留文科大、山梨県立大などに124人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ436人が合格。

私が
目指している
授業

国際バカロレア(以下、IB・*1)の認定校の本校に赴任して3か月が経ちました。本校には、「総合的な探究の時間」において、3年次の論文作成を目標とした3年間の指導計画があります。現在1年次生を担当しており、私も生徒と一緒に探究の手法を学びつつ、IBと本校の探究学習の共通の理念である論理的思考力の育成に尽力しています。

生徒には、Serendipityを大切にしようと考えています。それは「偶然がもたらす幸運」という意味で、私のクラスの目標でもあります。興味・関心を持って探究を深め、仲間と切磋琢磨した先にSerendipityがあり、それが自分の成長につながることを実感してほしいと思っています。

*1 スイスのジュネーブで設立された非営利団体で、3歳から19歳までの国際的な教育プログラムを開発・提供している。

授業レポート

本時の概要

[対象] 1年次生 **[教科・科目]** 総合的な探究の時間(鳳凰学I)
[単元] 地域研究 **[単元目標]** 2・3年次の探究学習に向けて、「山梨に生きる」をテーマに、試行研究に取り組む。研究テーマやリサーチクエスチョンの立て方、先行研究の検索、調査・実験、研究結果のまとめ、考察、発表など、探究学習に必要な一連の手法を学ぶ
[授業時数] 全13時間のうちの4時間目



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 研究テーマの候補を共有 10分間



前時に、研究テーマを考える前段階として、5つの領域(歴史・芸術・数学・自然科学・人間科学)に、生徒は自分の興味・関心をあてはめた。前時の内容を振り返った後、各自、そこから派生させて考えた研究テーマの候補を共有し、よい点や改善点を指摘し合った。

2 「山梨の要素」を出し合う 15分間



研究テーマの候補と山梨との接点を見いだすため、4~6人のグループを組み、「山梨の要素」を住民・環境・地理・経済などの視点で出し合った。4分後、細倉先生が指名した3チームがその内容を発表。「空き家が多い」「不登校率が高い」など、山梨の統計を調べて要素を挙げたチームもあった。

3 各自、研究テーマを設定 12分間



本時のキー課題

各チームが挙げた山梨の要素と研究テーマの候補をかけ合わせ、各自で研究テーマを設定した。「研究テーマが思い浮かばない場合は、キーワードマッピングを使って考えてみましょう」と、細倉先生がアドバイス。前年度の生徒の研究内容をスライドで紹介し、学問と興味・関心を結びつけるコツを伝えた。

4 設定した研究テーマを共有 8分間



隣の席の生徒と、設定した研究テーマを伝え合った。研究テーマを設定できなかった生徒は、その理由を説明して、相手の生徒にアドバイスを求めた。「感想だけでなく、改善点を具体的に伝えるとよいですね」と、細倉先生。最後に、次時は研究の目標や調査・実験の方法などを考えることを伝えた。

発問・課題設定の観点

生徒が意見を
出し合う場を設け、
新しい視点を持たせる



本校の探究学習は、1年次の研究テーマの設定から3年次の論文作成まで、3年間の指導計画を「探究チーム」が綿密に立てており（P.25コラム参照）、全教師がそれを基に授業を行っています。

指導の中で重視しているのは、生

図1 本時のプリント（抜粋）

1 「山梨」の要素を書き出してみよう。（住民、環境、地理、経済などの視点から具体的なものを挙げていく）

富士山	画家
八ヶ岳	健康寿命
桃	盆地
ぶどう	野生動物
ワイン	融雪地
ほろゆき	温泉

2 研究ノート（方眼紙）を使って、情報を整理し「研究テーマ」を検討しよう。
（再びキーワードマッピングをするなど、自分の頭の中を整理するために自由に活用する）

3 「山梨に生きる」研究テーマ（疑問形ではない）

※学校資料を抜粋して掲載。

徒が自分の興味・関心に応じて自身で問い（リサーチクエスト）を設定することです。1年次は、1つの問いについて、複数の視点で検討できるように工夫して指導しています（図1）。自分で問いを立てれば、探究学習が自分事になり、最後の論文作成まで意欲的に取り組むことができるとともに、思考力や判断力、表現力、問題解決能力などを高めることができます。

私が授業で大切にしているのは、生徒同士の学び合いです。例えば、ペアやグループで感想や考えを共有する際には、「どこがよいと思うのか」「さらによくするための方法は何か」といったことまでを伝え合うように指導しています。

本時の「山梨の要素」を出し合う活動においては、指導案では個人ワークを想定していましたが、本時はグループワークにしました。他者の考えを聞いて、自分にはない視点を獲得する、それが学校で学ぶことのよさだと考えています。複眼的な視点を持たせることが、1Bが重視する論理的思考力の育成にもつながっていきます。

学習評価の工夫

ルーブリックや
振り返りシートなどの
評価項目は全校で統一



3年次の論文作成では6項目を、スーパーバイザーの教師（*2）が5段階のルーブリックを用いて評価します。ルーブリックは文系用と理系の2種類があり、文系用では論理的な枠組みの構築「先行研究を追究する力・観点の明確さ」など、理系用では「探究する課題の設定」「科学的・普遍的な論理の構築」など、

共通項目として「粘り強く取り組む姿勢」「ICT活用能力」などを評価項目にしています。

毎授業で、振り返りシートを使った自己評価と他者評価を行っています。1年次の論文発表会や2年次の中間発表会などでは、自己評価に加え、生徒の相互評価も行っています（図2）。ここでは、もっとよくするにはどうすればよいかといった視点で、コメントを交換させています。

1年次は、それらの評価を1年間継続することで、自分の取り組みを客観的に見られるようなメタ認知能力を養うことが目標です。

図2 2年次「リサーチクエスト発表会」自己評価

準備段階	1	「分かっていること」と「分からないこと」を区別する
	2	知りたいことに関して、適切に情報収集する
	3	検索した情報がどの程度信頼できるか判断する
	4	分からない問題を前にして、すぐに「答え」を探しに行くのではなく、まず自分で考える
	5	「分からないこと」「困ったこと」がある時には、1人で解決しようとせず、適切に他者に助けを求める
発表当日	6	他者にプレゼンすることで、自分の理解を深める
	7	自分の考えを他者に適切に伝える
	8	話し合いやフィードバックを基に、他者の意見を取り入れながら自分の意見を柔軟に変える
	9	対話の中で新しいアイデアを出す
	10	人前で物怖じせずに発表する
	11	分かりやすくプレゼンテーションを行う
	12	「よい聴衆」であろうとする
	13	教師の指示がなくても、自ら判断し、行動する
	14	時間を最大限有効に使う
	15	他者のプレゼンテーションから積極的に何かを学ぼうとする
	16	自分の周囲の人の「面白さ」を積極的に見つける

各項目について、1：達成できなかった～5：十分に達成できたの5段階で自己評価する。 ※学校資料を基に編集部で作成。

*2 生徒が探究学習のアドバイスを受ける教師のこと。スーパーバイザーの各教師の専門分野・特技・関心が書かれたリストから、生徒は自分に合う教師を選ぶ。



毎年進化する指導案

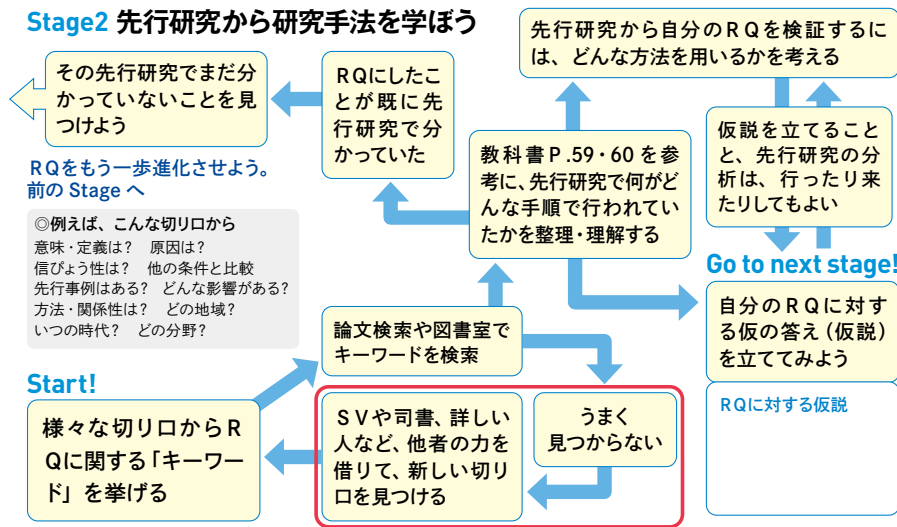
IB認定校の本校では、IBの中核を成すTOK (Theory Of Knowledge、知の理論) のノウハウを探究学習の指導に生かしています。3年間の探究学習の流れは、1年次は山梨の課題を題材とした試行論文を作成し、2年次は3年次に作成する論文の研究テーマ(リサーチクエスト)を決め、1年間をかけて個人で調査・研究に取り組み、2年次1月の中間発表会を経て、3年次6月までに論文を完成させるというものです。そして7月末には、優秀者10人が全校生徒の前で発表をする「n-Quest 西高探究の日」(*3)を開催します。

探究学習の3年間の指導計画は、「探究チーム」の教師4人が中心となって作成しています。授業内容を考

え、各授業で用いる指導案とプリントを作成し、その指導計画に基づいて、各学年の授業担当5人が「総合的な探究の時間」に授業を実施します。2年次からは、すべての教師が探究学習の「スーパーバイザー」となり、1人あたり5~6人の生徒を受け持ち、研究テーマの設定や調査・実験・観察、論文作成を支援します。

毎年、前年度の実践を踏まえて指導計画を改訂し、取り組みを形骸化させないようにも努めています。2023年度は、「先行研究から研究手法を学ぼう」の段取りを改善しました。以前は、自分の研究テーマの先行研究が見つからない場合の方法が示されていませんでした。その道筋を加えることで、生徒が自己調整をして、先行研究を探せるようにしました(下図)。

Stage2 先行研究から研究手法を学ぼう



2023年度の指導案では、赤枠の部分を加えた。先行研究を見つけられない時の次の行動をあらかじめ示しておくことで、生徒も授業を受け持つ教師も、活動しやすくなった。

RQ:リサーチクエスト
SV:スーパーバイザー

※学校資料を基に編集部で作成。

*3 2023年7月に開催された「n-Quest 西高探究の日」の様子をレポートした記事は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の「ウェブオリジナル記事」でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article16492/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

成果と展望

自身の

論理的思考力を高め、
発問を工夫していきたい



本校が探究学習を今の形にして5年が経ちました。全国規模の探究学習の発表大会に挑戦する生徒は年々増えていて、2022年度には、「高校生国際シンポジウム」の本大会にも出場しました。

私自身の気づきは、同じ指導案でも、教師の発問次第で生徒の思考の深まりが変わることです。「なぜ」と根拠を追求することや、自らの論の主張・理由・具体例に一貫性を持たせることなど、生徒が考え続けられるような声かけを、教科の授業でも意識して行うようになりました。

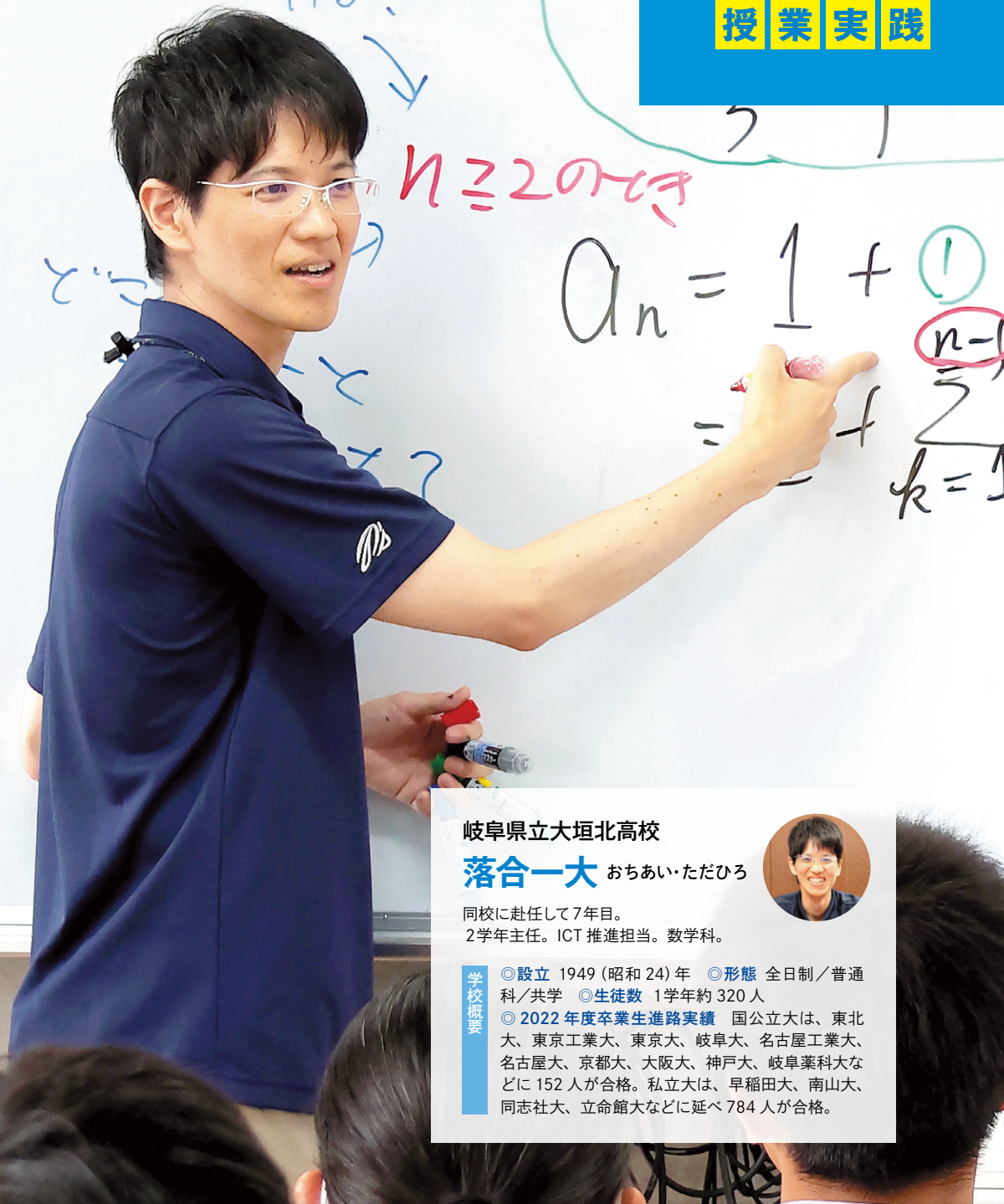
今後の課題は、生徒の論理的思考力をさらに高めることです。筋道を立てて論を展開する場面は、社会に出てからも多くあります。IBで育成を目指す論理的思考力を私自身が高め、生徒の思考をより促す発問ができるようになりたいと思います。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

数学

生徒に教え過ぎず、
問いかけや
生徒同士の対話で、
理解に導く



岐阜県立大垣北高校

落合一 おちあいたひろ



同校に赴任して7年目。
2学年主任。ICT推進担当。数学科。

学校概要

◎設立 1949 (昭和 24) 年 ◎形態 全日制 / 普通科 / 共学 ◎生徒数 1 学年約 320 人

◎2022 年度卒業生進路実績 国公立大は、東北大、東京工業大、東京大、岐阜大、名古屋工業大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、岐阜薬科大などに 152 人が合格。私立大は、早稲田大、南山大、同志社大、立命館大などに延べ 784 人が合格。

私が
目指している
授業

生徒には数学の授業を通じて、自分で情報を集め、判断し、行動できる力を育成したいと考えています。私は高校時代に、「せっかく考えているのだから、答えを言わないでほしい」と、授業中に思うことが何度もありました。そうした経験も踏まえて、授業では生徒に教え過ぎないようにしています。そして生徒に対して、「絶対に 1 人も置いていかない」と宣言しています。自分で考えたいという生徒には与えるヒントを絞り、分からないと意思表示した生徒には分かるまでサポートします。粘り強く試行錯誤し、その結果を振り返ることができる力を育むことも目指しています。

授業レポート

本時の概要

[対象] 2年生 [教科・科目] 数学・数学B [単元] 数列
[単元目標] 数列の学習を通して、その考え方を理解するとともに、基礎知識の習得と問題解決に至る技能の習熟を目指す。様々な具体的な事象を数学的に考察し、表現する能力を身につけ、それらを活用する態度を醸成する
[授業時数] 全12時間のうちの7時間目



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

1 前時までの学習内容を復習 5分間



落合先生はホワイトボードで、前時までに学習した5つの Σ の公式を生徒に問いかけた。生徒は、まず各自で考え、その後、席が近い生徒同士で答え合わせをした。落合先生は答えは言わず、「完璧？」と生徒に尋ねた。多くの生徒がうなずき、質問がないことを確認してから、本時の問題に移った。

2 教科書の例題に取り組む① 10分間



数列の一般項を求める教科書の例題に取り組んだ。落合先生は、「1、4、11……」と数列を示し、「どんな計算をすれば一般項が求められる？」と尋ね、生徒同士で見通しを話し合わせた。次に、「どこを見てそう思った？」などと落合先生が問いかけ、それについて生徒が話し合うという活動を繰り返した。

3 教科書の例題に取り組む② 25分間

本時のキー課題



落合先生は、「なぜ $n=1$ のときと $n \geq 2$ のときで場合分けする必要があるの？」など問いかけ、生徒の反応から理解度を確認し、ヒントを少しずつ増やしていった。生徒同士での相談もさせたが、詳しい説明がほしい生徒を前に集めて、さらにヒントを提示。最終的に全員が解答することができた。

4 「日々プリ」の復習 10分間



数列から離れ、1日1枚課す「日々プリ」(P.29参照)のうち、正答率が低かった相関係数の問題を復習。落合先生は、 x と y の標準偏差と相関係数の数式を示し、「式を見て何が分かる？」と問いかけ、生徒同士で話し合わせた。ベクトルの内積と相関係数の共通点に気づいた生徒から、「おー」と声が上がった。

発問・課題設定の観点

発問に対する反応で 理解度を把握し、 次の発問を考える



授業では、教科書の例題を深く掘り下げて、基本がしっかり理解できるようにしています。

本時の例題は階差数列でしたが、私は「階差数列とは……」などと説明することはせず、例題の数列について、「次の数字は?」「何でそうなる?」「どこを見てそう思ったの?」などと問いかけます。その時に意識しているのは、生徒が考えなくなる発問をすることです。生徒の発言内容や表情などから理解度を把握し、



写真1 生徒全員が立ち、教科書の例題に取り組む。問題が解けた生徒は着席する。

生徒に投げかける発問を考えます。生徒が自分で考えて理解できるようにし、取り残される生徒が出ないように工夫しています。

生徒が「分からない」と意思表示しやすいように、最初に生徒全員が立ち、問題が解けた者は座るといった方法を採用することもあります(写真1)。座った生徒は、「日々プリ」や次の例題に取り組み、立っている生徒は、座った生徒に質問するなどして、分からない点を解消していきます(写真2)。

それでも問題が解けない生徒には、私がヒントを出したり、「日々プリ」に分からない点を書いてもらったりして、生徒個別に対応しています。



写真2 問題が解けて座った生徒の周りに、まだ解けない生徒が集まり、座っている生徒に分からない点を質問。そうした輪が教室内のあちこちにでき、学び合いが活性化していた。

学習評価の工夫

粘り強さと 自己調整力が、 数学科の求める主体性



2年次の数学では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価は定期考査を対象に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は「日々プリ」を対象に行っています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準は、振り返りと自己調整ができていればA、粘り強さが見ら

ればB、白紙はCです(図)。「日々プリ」の裏に評価基準を示し、生徒と教師がそれぞれ評価します。

数学における「主体的に学習に取り組む態度」は、「解答に向かう行動そのもの」と捉えています。試行錯誤しているか、それを基に考察しているかを評価します。

試行錯誤の跡を見るために重視しているのが「実験」です。例えば、点をプロットしてグラフをかいてみる、具体的な数字をあてはめてみるなど、図式化したり、具体化したりしてみることです。

そうした実験の大切さを生徒に意識させるために、授業では「分からなくなったら実験してみよう」と呼びかけています。本時のΣの計算の時に、「分からなかったら数字を1つずつあてはめよう」とアドバイスしました。実験の習慣をつけることで、粘り強さや考察力を養いたいと考えています。

図 「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準

また、下記のルーブリックにしたがって自己評価せよ。

<p>主体性の評価</p> <p>C 白紙または自分の言葉でかいていない</p> <p>B 粘り強さがある</p> <p>A 振り返って、結果を調整しようとしている</p>	評価
--	----

※このプリントは数Iの成績評価(主体性)に加味する。

主体性の評価は数学的に正しいかどうかとは全く関係ありません。ルーブリックにしたがって自己評価できるようになりましょう。

B 「粘り強さがある」とは
実験の跡があればよい
つまり、何かかいてあればB

A 「振り返りがある」とは
実験結果が妥当であるか確認したり、よりふさわしいものを考えたりと、考察があればA(自己調整力)

「日々プリ」では、定期的に「主体的に学習に取り組む態度」を生徒に自己評価させている。 ※学校資料を抜粋して掲載。



「日々プリ」で理解度把握と学力向上を実現

2年生の数学では、1日1枚の課題「日々プリ」を配布している。1週間に5枚、1年間で130枚以上にもなり、生徒が数学の力をつける機会となっている。教師は、プリントの解答状況から、生徒がどの程度理解しているのか、どこでつまづいているのかを把握する。生徒の理解度が全体的に低ければ、本時の最後に相関係数について取り上げたように、授業で復習する。

「日々プリ」は落合先生の担当学年が始めた取り組みで、今年度は1年生でも「日々プリ」を配布しており、学校全体に広がりを見せている。

生徒は、先生への質問を赤字で書き込む

日々プリ No.36 組

次の等式を満たす α を求めよ。ただし $-\pi \leq \alpha \leq \pi$ とする。

(1) $\sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta = 2 \sin(\theta - \alpha)$
 (2) $\sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta = 2 \cos(\theta + \alpha)$
 (3) $\sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta = -2 \cos(\theta - \alpha)$

(1) $2 \sin(\theta + \frac{\pi}{6}) = 2 \sin(\theta - \alpha)$
 $\sin(\theta + \frac{\pi}{6}) = \sin(\theta - \alpha)$
 $-\pi \leq \alpha \leq \pi$ より、
 $\alpha = -\frac{\pi}{6}$

前期中
1個のさ
このさし
え方を
4C3

理解できていない点を教師に質問したい生徒は、「日々プリ」に「これでもよい?」「OK?」などと書き込む。教師はそれに対して、適宜アドバイスを記入。

(1) 誤りの理由を説明せよ。
 (2) 三角関数の合成の目的を書きなさい。
 ただし「グラフをかいたため」ではなく、「合成するとなぜグラフがわかるか(かきやすくなるか)」に注目して書く。

$\sin x = 1$ (最大) $\alpha = \frac{\pi}{2}$
 $\cos x = 1$ (最大) $\alpha = 0$
 $\cos x = -1$ (最小) $\alpha = \pi$
 $\sin x = -1$ (最小) $\alpha = \frac{3\pi}{2}$
 $\sin x = 0$ $\alpha = 0$ または $\alpha = \pi$

間違った点を忘れないよう、生徒は自分で赤ペンでコメント

ON = 200
 $KL = NM$
 $OL = OM$
 $OL = OM$
 $OL = OM$

解答後、生徒はプリントの裏面にあるヒントと解答を見ながら自分で添削。どこを間違えたのかを忘れないように、赤ペンでコメントを残しておく生徒もいる。

・プリントは学年で統一し、各クラスの担当教師が解答状況をチェック

げた箱横の机に積まれた「日々プリ」を、係の生徒が配布。各自取り組んだら、提出用ボックスにプリントを入れる。各クラスの数学の担当教師は、提出されたプリントをチェック。「主体的に学習に取り組む態度」を評価し、生徒からの質問があればアドバイスを記入して、生徒に返却する。

・応用問題や発展問題が中心

授業では教科書の例題を中心に上げるため、「日々プリ」では応用問題や発展問題を出题。生徒が授業で学んだ基本事項を活用できるかを見取っている。

・現在、授業で扱っている分野以外からも出题

直近の授業の復習となる問題に加え、大学入試を見据えて既習分野からも出题。例えば、二次関数、三角関数、微分、積分といった重要度の高い分野は繰り返し出题し、定着を図る。

・関連する分野を連続で出题

出题分野はランダムではなく、ベクトルの問題の後には平面図形の問題を出すなど、関連分野を連続して出题。生徒が分野間のつながりに気づける工夫をしている。

成果と展望

個別支援の精度を高めていきたい

生徒に授業の感想を聞くと、「知識と知識が繋がった」「本質が理解できた」「分からないまま前に進むことがなかった」といった声が上がります。生徒が自分の頭で考えている様子がうかがえることは大きな成果だと思っています。

一方で、「もっと説明してほしい」「途中式を書いてほしい」「といった要望もあります。「日々プリ」などを通じて生徒の理解度を的確に把握し、支援が必要な生徒には時間をかけ、自分で学びを進められる生徒は早々に手を離すなど、一人ひとりに対して、より一層適切な支援をしたいと考えています。

「日々プリ」をいつまで行っても検討中です。3年次前期には、生徒が「日々プリ」がなくても、自分で勉強できるようにすることが目標です。「日々プリ」を任意提出にするなど、徐々に手を離そうと考えています。





探究学習

伴走する教師たち

宮崎県立
みやこのじょう
都城商業高校
ほん
北郷晶子



調べ学習に終わらせない！ 生徒とともに新たな課題を設定し、 エシカルな売店作りにも挑んだ

探究学習の概要

当初の年間計画を変更し、
社会を変える活動へ発展

2022年度の前期、宮崎県立都城商業
高校の1・2年生は、「総合的な探究の時間」
において、「エシカル消費（*）」をテーマ
にした探究学習に取り組んだ。夏季休業前
には、エシカル消費について調べたことを
グループごとに発表し、後期は、1年生は
自己理解をテーマに、2年生は自分の興味・
関心のあるテーマで、それぞれ新たに探究
学習に取り組んだ。

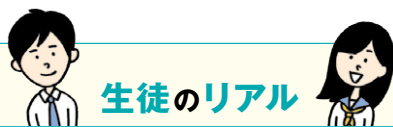
一方で、学んだことを自分事として考え
続けられる場を校内につくろうと担当教師
が決意。生徒たちの意見を基に、22年5月
に閉店したばかりの学校の売店を、地域や
環境に配慮した商品を取り扱い、生徒たち
が経営する店として再開させようというプ



ロジエクトに発展させ、17人の有志生徒が、
10月のプレオープンを実現させた。

23年度からは、定期的な営業を開始。
近隣のパン店で売れ残ったパンをフレ
ンチトーストにして販売することによ
り、フードロスを防いだり、商品の一
部を予約制にして売れ残りを出さない
ようにしたりするなど、持続可能な売店
として工夫をしながら営業を続けている

（写真）。エシカ
ルな売店づくり
という実践的な
課題を生徒自身
が設定し、地域
の力を借りなが
ら目指すべき売
店の姿を整理・
分析し、実現し
た事例だ。



生徒のリアル

自ら参加したのに
意見が言いにくかった

経営情報科（旧課程）・3年生
Y・Oさん



発表だけで終わらず
に、売店づくりに発
展させることを知り、
これはチャンスだと思っ
て参加しました。しかし、
話し合うことはたくさん
あるのに、最初のうちは
メンバーの話し合いが
進みませんでした。隣に
座った友達と話している
時は「プラスチックは使
いたくないね」などと皆
意見は言うのに、全員
の前で発表することが
できなかったのです。ほ
かの人から「出しゃばっ
ている」などと思われ
ることを恐れて、メン
バー間の壁を取り払
うのに時間がかかりま
した。

役割分担に
ひと苦労した

情報ソリューション科・2年生
K・Hさん



売店の営業再開に向
けて、広報、仕入れ、
販売などのチームに
1・2年生が学年の枠を
超えて所属し、それぞ
れ作業を進めました。
1年生だった私が同じ
チームの先輩のところに
ポスター作りの打ち合
わせに行くと、「私がも
う作ったから大丈夫」と
言われることがありま
した。できる人が早く
作った方がよいという
先輩の思いやりには感
謝しつつも、いろいろ
な人と考えを出し合
いながらチームの仕
事を進めるにはどう
すればよいのか、悩
む時期がありました。

学校概要

設立 1904（明治37）年
形態 全日制／商業マネジメント科、情報ソ
リューション科／共学
生徒数 1学年約160人
2022年度卒業生進路実績 国公立大は、佐
賀大、大分大、名古屋市立大、下関市立大、
宮崎公立大などに12人が合格。私立大は、國
學院大、中央大、福岡大などに34人が合格。
短大・専門学校進学68人。就職29人。

* 消費者一人ひとりが、社会的課題を考慮したり、社会的課題に取り組む事業者を応援したりしながら、消費活動を行うこと。



生徒も教師も、分からないことだらけだったけれど、 停滞したからこそ、分かったこともあった！

エシカル消費をテーマにした探究学習が始まった当初、生徒にとつて意味のある学びになつていないという手応えは実はありませんでした。配布したエシカル消費に関するパンフレットにも生徒は関心を示さず、プラスチックごみが問題になっている理由を尋ねても「分かりません」と答える。このままでは探究学習は調べ学習で終わってしまうと思いました。

そこで、夏季休業前のグループ発表で終わる予定だったスケジュールを変更し、「校内でエシカルではないものを探そう」というオンラインワークショップを開催し、生徒に自分ができるアクションを発表してもらいました。生徒の感想の中に、「エシカル消費について考え続けられる場をつくりたい」「閉店した売店を復活させて、エシカルな商品を扱いたい」といった声を見つけました。「これは、生徒が学びを自分事にするチャンスだ」と思い、売店を再開させるプロジェクトを生徒に呼びかけたのです。

しかし、売店再開は簡単ではありませんでした。新しい売店の経営方針、仕入れや検品の方法など、生徒も私も分からないことばかり。地域の商工会の方などに相談し、自分たちが置かれている状況を強み・弱みなどの観点で整理しながら、生徒と一緒に手探りで事業計画書を作りました。

ただ、簡単に物事が進まなかったからこそ、売店再開にあたって大切にしたいことを議論する時間や機会に恵まれました。「新しい売店では、利益以上に重要なものがあるはず」「私た

ちは地域の生産者や生産物についてもっと知るべき」。そんな言葉が生徒たちから発せられるようになったのは、校外の人たちの力を借りながら、何度も「どんな売店を作りたいのか」を話し合ったからだと思えます。

とは言え最初のうちは、生徒の話し合いは停滞しました。そこで、まずは学年の壁を取り払うことで心理的安全性を確保しようと、話し合いの際は車座にし、ニックネームプレートをつけさせました。「あのさあ」「ねえ」と恐る恐る話しかけていた生徒が、「○○ちゃん」と声をかけ合うようになると、話し合いも徐々に進むようになりました。

チーム内の分担やほかのチームとの連携がうまくできていないこともありました。例えば、プレオープンポスターに商品の「販売個数」が書かれていなかったため、生徒に確認したところ、「どのチームの、誰に聞けばいいか分か

「調べ学習に終わらせない」。
その思いに向き合ったから、
生徒たちと一緒に
たくさんの苦労と喜びを
味わうことができました

りませんでした」と答えたため、役割とその担当者名を一覧表にして、全員に渡しました。それまでの学校の活動では、多くの生徒が教師の指示通りに動けばよかったのですが、探究学習では、仲間と相談しながら、自分たちで考えて動かなければいけません。教師にとつても正解を絞り込めない探究学習だからこそ、生徒は停滞や混乱をたくさん経験することができました。売店再開までには紆余曲折がありました。生徒は、「もうやめよう」とは言いませんでした。私も、校内外の折衝がうまくいかず、しんどい時もありましたが、そんな時は、コロナ禍で様々な経験の場を失った過去の教え子たちのことを思い出すようにしました。生徒が「やってみたい」と思ったことは全部かなえてあげよう、あの当時、私は誓いました。目の前の生徒がエシカルな売店を作ろうとしている以上、私が先に折れることはありませんでした。



ほんごう・あきこ 同校に赴任して5年目。探究推進委員会。国語科。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

そうだったのか!

学習評価

先生方の疑問に識者が答えます!

今号の
テーマ

Q 新学習指導要領が実施されてから、毎日生徒の学習状況を評価することに追われています。どうすれば評価にかかる負担を軽減できますか。

A 「総括的評価」と「形成的評価」を明確に区別して評価することで、評価にかかる負担が軽減されるとともに、適正に評価しやすくなります。

総括的評価は“評定のための評価”、形成的評価は“指導改善のための評価”と考えたと分かりやすいかと思います。

総括的評価は、育成を目指す資質・能力が顕著に表れる場面で実施します。そのため、総括的評価は毎授業で実施する必要はなく、1度の総括的評価で、育成を目指す能力のすべてを見取る必要もないわけです。一方、形成的評価は、基本的に毎授業で行うべきものです。ただ、先生方が従来から行ってきた、授業中に生徒の様子を観察して理解度を把握することも、形成的評価の1つです。当然、すべての生徒を見取することはできませんし、その必要もありません。形成的評価は教科の指導改善に生かすことを目的としているからです。

先生方が負担に感じるのは、生徒の進路にも影響する評定のための評価である、総括的評価かと思います。生徒全員を対象にした評価ですから、評価規準・基準や評価方法等を教師間で統一する必要があります。ただ、前述の通り、総括的評価は毎授業で実施する必要はありません。場面を限定して実施する総括的評価と、毎授業実施はするが、指導改善にどう生かすのかは個々の教師に委ねられる形成的評価、その2つの評価の違いが理解できるだけでも、評価に対する負担感は少なからず軽減されるのではないのでしょうか。

● 総括的評価と形成的評価の違い

	総括的評価	形成的評価
目的	評定をつける	指導の改善に生かす
実施 タイミング	育成を目指す資質・能力が顕著に表れると考えられる場面や成果物などを選んで実施	基本的に毎授業で実施
対象	生徒全員を評価	生徒全員でなくてもよい
仕組み	少なくとも同一科目では、教師間で評価規準や評価方法などを統一	教師それぞれの方法で評価してもよい
方法	単元末テスト、パフォーマンス課題、レポートなど	観察、振り返りシート、小テストなど

※田村教授への取材を基に編集部で作成。

負担感も軽減! 学習評価の本質を 押さえる



回答者

國學院大學
人間開発学部初等教育学科 教授
田村 学

たむら・まなぶ 専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官などを経て、現職。著書に、『学習評価』（東洋館出版社）など多数。

Q 形成的評価も総括的評価と同じように、評価規準などに基づいて観点別に評価した方がよいのでしょうか。

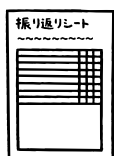
A 形成的評価も評価規準に基づいて行うことが望ましいですが、総括的評価より少し緩やかなイメージで捉え、徐々に精度を高めていきましょう。

生徒が各単元の学習目標を達成しているかを的確に把握し、その結果を指導改善に生かしていくために、形成的評価においても、評価規準に基づいて生徒の変容を捉えるに越したことはありません。

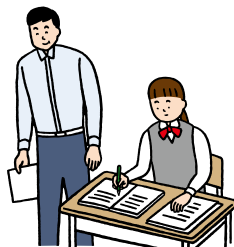
ただ、形成的評価は、あくまでも教師が自身の指導改善に生かすためのものです。すべての授業で評価規準に基づいて評価することも、生徒全員を評価することも求められていません。

形成的評価は、まずは無理のない範囲・方法で実施しましょう。

● 形成的評価の方法（例）



生徒の自己評価や振り返りから、目標の到達度を見取る



特定の生徒を継続的に観察して、活動を通じた変容を把握

Q 総括的評価を実施する、育成を目指す資質・能力が顕著に表れる場面とは、具体的にはどのような場面なのでしょうか。

A 顕著に表れる場面は、資質・能力によって異なるため、評価計画を立てることが重要です。

生徒は単元の中で様々な資質・能力を発揮しながら学びを進めていきます。また、教師は各単元において、重点的に育成する資質・能力を設定しているはずですが、それらを基に、小単元や学習活動ごとに評価する観点と、場面や成果物を検討します。例えば、「思考・判断・表現」の評価では、知識を習得する活動ではなく、問題解決に取り組む活動での生徒の姿を見取るといった具合です。「主体的に学習に取り組む態度」として、他者と協働して学びを深める態度を評価する場合は、協働学習の場面などが適しています。総括的評価の集積が評定に総括されるため、全生徒を公平に評価できる場面を選ぶことも重要です。

● 各観点の評価計画を、単元ごとに立てる

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小単元 1	○		
小単元 2	○		
小単元 3 (単元末)		○	○

各小単元の目標に応じて、学習活動や発揮される資質・能力は異なります。そのため、各小単元での評価の観点も異なるとよいわけです。
※田村教授への取材を基に編集部で作成。



👉 いきなりすべての単元ではなく、まずは次の単元の総括的評価と形成的評価の計画を立ててみましょう。

👉 分からない点は1人で悩まず、まずは相談。生徒の資質・能力を伸ばしている校内の先生に、学習評価の方法や工夫点について聞いてみましょう。



学年団の指導改革

学年全体で個々の生徒に寄り添い、 目標意識や学力の向上を支える

宮城県・私立仙台城南高校

1分
で分かる軌跡

少子化の影響で生徒募集という課題に直面していた宮城県・私立仙台城南高校は、2020年度入学の学年において、将来に向き合い、夢や目標に挑戦する生徒を育成するための教育改革に着手。その成果を測る指標の1つに国公立大学合格者数を挙げ、学年団でビジョンを共有し、学習・進路指導の強化を図った。各教師が足並みをそろえて生徒とこまめに面談し、一人ひとりに寄り添う指導によって、生徒の目標意識や学力を向上させ、確かな成果を引き寄せた。

#学年団のチームビルディング
#個別指導の強化

学校概要

設立 1961（昭和36）年
形態 全日制／普通科、科学技術科（*1）
／共学

生徒数 1学年約320人
2022年度卒業生進路実績

国公立大は、帯広畜産大、北海道教育大、北海道大、室蘭工業大、岩手大、東北大、福島大、茨城大、埼玉大、大阪などに18人が合格。私立大は、東北医科薬科大、東北学院大、東北工業大、東北福祉大、芝浦工業大、東京電機大、法政大、明治大などに延べ168人が合格。

*1 2021年度入学生までは、特進科、探究科、科学技術科の3学科、2022年度入学生からは、普通科（特別進学スーパーコース、特別進学アクティブコース、総合進学コース）、科学技術科（電子機械コース、情報通信コース、デザインコース、電気エネルギーコース）。



千葉俊哉
ちば・としや
普通科総合進学コース長
同校に赴任して19年目。理
科（物理）。



鈴木理恵
すずき・りえ
グローバル教育推進部長
同校に赴任して20年目。英
語科。



相澤茂紀
あいざわ・しげのり
1学年主任
同校に赴任して15年目。英
語科。



中野智保
なかの・ちほ
入試広報部
同校に赴任して15年目。理科
（生物）。



濱谷 輔
はまや・たすく
進路指導部進学主任
同校に赴任して10年目。数
学科。



菊地 亨
きくち・こう
進路指導部長
同校に赴任して23年目。数
学科。



鈴木 聡
すずき・さとし
前3学年主任
同校に赴任して18年目。進
路指導部。工業科。

変革の背景

**生徒の成長を支えるため、
学年全体で指導する体制に**

東北工業大学と同じ法人が運営する宮城県・私立仙台城南高校は、前身が男子校だったが、共学化を経て、2013年度に、特進科、探究科、科学技術科（*1）を擁して、現在の校名とした。近年は、少子化の影響で、同校が立地する仙台圏も生徒募集の激戦区となり、入学者の確保と学力層の多様化という課題に直面していた。普通科総合進学コース長の千葉俊哉先生は、こう振り返る。

「将来の目標が漠然としたまま3年生になり、受験勉強に身が入らない生徒も少なくありませんでした。大学入学をスタートと捉え、人生を充実させていける生徒を育てるため、早い時期から自分の将来に向き合わせ、やりたいことに挑戦できる学力をつけさせる必要があります」
20年度には学習と部活動にバランスよく取り組む「アクティブコース」を特進科に新設。同校は学科やコー

スごとに教育課程が異なるため、学年全体で指導の共有はあまりされていなかったが、コース新設を機に、学年全体で指導する体制に改めた。

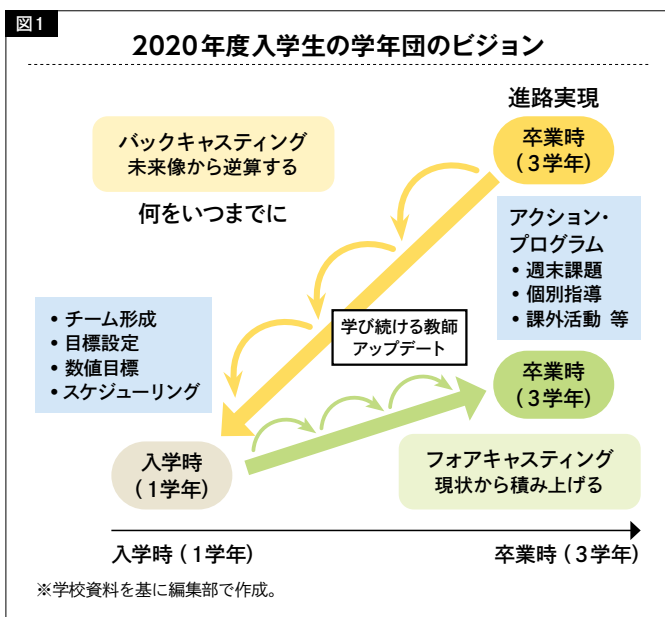
変革の一手①

**学年団でビジョンを共有し、
チームビルディングを図る**

20年度の1学年団がまず行ったのが、学年団の団結力の強化だ。学年主任を務めた鈴木聡先生は、次のように語る。

「先生方にかけていることを出しても良かったところ、生徒の学力が多様化したことで、コース内での一斉指導が難しくなっていると分かりました。そうした中でも、生徒の進路の選択肢を広げるためには、学力向上こそが最も重要だと、学

年団で改めて確認しました。そして、社会が変化する中で、教師自身も学び続けることが必須だと、共通認識を図りました」
次に指導のビジョンを作成。バックキャストイングの考え方の下、卒業時の生徒の姿から逆算して指導のストーリーをつくり、フォアキャストイングの考え方の下、生徒の現状を捉えた上で週末課題や個別指導などを行う計画を立てた（図1）。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

週末課題で 家庭学習の習慣が定着

学習指導では、週末課題を1年次から学年全体で実施した。具体的には、国語・数学・英語の課題を毎週木曜日にオンラインで配信。担任が月曜日に提出状況を確認し、未提出

者に声をかけた。火曜日と水曜日は放課後に未提出者を集めて、課題に取り組みさせた(図2)。前3学年探究科担任の相澤茂紀先生は、1年次の1学期が肝心だったと語る。

「1年次の1学期は未提出者が多く、提出するまで生徒個々に何度も声をかけ、それでも未提出の場合は放課後に必ず取り寄せました。すると、生徒の中に『課題は必ず提出するもの』という意識が定着し、2学期には、ほぼ全員が提出日を守るようになりました」

の確認テストと、生徒が受検する検定で問われる語彙の問題演習、数学は、前週の授業の確認テストと、解けなかった問題の解説動画の視聴、英語は、中学校の学習内容を含む基礎事項の復習とした。特に、動画の視聴量(インプット)よりも、演習量(アウトプット)を重視した。

変革の一手②

小さな成功体験を通じて、 学習意欲や進路意識を高める

3年間を通して、個人面談や個別指導にも学年全体で力を入れた。前3学年特進科アクティブコース担任

の中野智保先生は、担任がこまめに面談を行って、生徒一人ひとりの状況や課題を把握し、卒業後の進路を見据えた指導・助言を行ったと語る。

「目の前のことしか見えていない生徒たちに、3年後に向けて学習や経験を一つひとつ積み上げていくよう助言しました。本校への入学が不本意で、『どうせ自分にはできない』といった発言をする生徒には、『まずはやってみようよ』と後押しする

など、小さな成功体験を積ませることを大切にしました。すると、徐々に学習や活動に前向きに取り組むようになりました」

東北工業大学との高連携プログラム「アカデミックインターシップ」も、学年全体で推進した。希望者が同大学の研究室に参加する同プログラムは、11年度から実施している。以前の参加者は主に探究科の生徒だったが、他学科にも声をかけたところ、例年30人程度だった参加者数が、20年度には約80人に増加。コロナ禍だったが、高校と大学が連携し、安全に十分配慮した上で実施した。

同プログラムを通じて学びたいことを見つけ、希望進路が具体的になった生徒が、他の生徒に好影響をもたらす姿も見られたと、前3学年探究科担任の濱合輔先生は語る。

「同プログラムに参加した生徒が、他の生徒に『大学の研究内容がとても面白かった』『志望理由書や面接にも役立つそう』などと話す姿を何度も目にしました。21年度にはさらに参加者が増え、多くの生徒が進路意識を高めました」

図2

週末課題の流れ

		月	火	水	木	金	土	日
教科	国語	配信担当者 間違えた問題等のフォローアップ課題を配信	学年指導 未提出の生徒に放課後、課題に取り組みさせる	→	配信担当者 放課後に配信	→	生徒は配信された課題に家庭で取り組む	
	数学							
	英語							
クラス担任 副担任	朝のSHR等で提出状況を確認	毎朝提出状況を確認し、未提出者に声をかける。提出状況が悪ければ、教科担当者と協力して個別指導を行う		→				
教科担当者		提出状況を確認し、記録する。提出状況が悪ければ、クラス担任と協力して個別指導を行う		→				

※学校資料を基に編集部で作成。

管理職を含めた全教師で 面接や小論文を個別指導

22年度の3年次は、それまで担任が担っていた総合型・学校推薦型選抜に向けた面接や小論文の指導を、管理職を含めた全教師がそれぞれ生徒5人程度を受け持つ体制とした。そのねらいは、特定の教師に負担が偏らないようにするとともに、教師全体の指導力の向上にもあつたと、進路指導部長の菊地亨先生は語る。

「職員室で様々な教師が指導する姿を見る機会が増え、『こうやって生徒の考えを引き出すのか』などと、教師間で指導法を学び合いました。ほかにも、個人情報削除した上で、志望理由書などをオンライン上で閲覧できるようにしたり、志望理由書や小論文の指導法をテーマにした校内研修を実施したりして、教師間で指導のノウハウを共有しました」
それらの取り組みは、生徒を含めた学年全体のチームとしての意識の高まりにもつながった。例えば、総合型・学校推薦型選抜で合格した生徒が、他の生徒に面接のアドバイス

をしたり、グループディスカッションやプレゼンテーションの練習に参加したりして、自分の経験を積極的に還元しようとしていたという。

変革の成果と展望

合格者数増加とWWL指定で 改革の機運が高まる

改革の成果は22年度3年生の合格実績に表れた。国公立大学合格者数は過去最高の18人を記録。入学時のGTZ(*2)がCゾーンの生徒が力をつけて合格したケースが多かった。一般選抜で難関国立大学に合格した生徒は、入学時はBゾーンだった。また、東北工業大学への内部推薦の基準を満たす生徒が大幅に増えた。それらの成果は教師の自信にもなり、改革の機運が高まっている。23年度、文部科学省の「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援」の指定を受け、イノベティブなグローバル人材の育成に向けて動き出した。グローバル教育推進部長の鈴木理恵先生は、次

のように展望を語る。

「22年度は、SDGsを踏まえた、教科横断的な学びに注力しました。例えば、バナナの茎で作るバナナペーパーを題材とした英語の単元に関連させて、生物の授業でバナナペーパーを作り、クリスマスカードにして保護者に贈る活動を行いました。公民の授業ではバナナペーパーがどのように社会に貢献できるのかを考えました。23年度以降も、そう

した教科横断的な学びを充実させて社会貢献活動を行い、その内容を国内外に発信していく予定です」
20年度からの3年間の改革と成果をきっかけに、同校の教師にはチームとして動く意識が根つき、職員室は情報交換で活気を帯びている。教師が、そして学校が変わり続けようとする姿勢は生徒にも伝わり、教師の期待を上回るような成長や飛躍につながっていくことだろう。

ベネッセが見た軌跡

生徒一人ひとりへの 細かな個別指導が魅力!

私が同校を訪問する中で印象に残っているのは、面談です。先生方は、生徒によって異なる探究テーマを踏まえて、各テーマを追究できる進学先を提示されます。先生方の知識が豊富で、面談を経て、実際に行動を起こす生徒も増えています。近年の地元志向・安全志向の中で、「やりたいことに取り組むために、西日本の大学に進学したい」「目標の実現に向けて、後期日程まで粘る」といった生徒が出てきています。

先生方は、私にも、温かくも本気で対話をしてくれます。まさに面談を受けているかのような気持ちになり、いろいろなことを相談しています。先生方の教育への想いと生徒に対する丁寧さが実り、東北地区初のWWL指定につながったのだと思います。

全体指導と個別指導にあられる先生方の後方支援ができるように、これからもよい情報を集めてお届けして参ります。

(株)ベネッセコーポレーション 東北支社
仙台南高校担当 志茂陽平



* 2 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」までの15段階で評価される。実力診断テストでは、そのうち「A1」～「D3」で評価される。

セミナーレポート

新課程2年目「情報Ⅰ」の 授業実践と入試対応を考える

ベネッセ教育情報センターは2023年5月、ウェブセミナー「新課程2年目「情報Ⅰ」の授業実践と入試対応を考える」を開催した。「情報Ⅰ」に関する指導上の課題を、ベネッセの「情報Ⅰ」アセスメント「Pプラス」の受検結果から分析し、その課題にどう取り組んでいけばよいのかを、実践例を交えて紹介した。

8割の教師が「情報Ⅰ」の指導に課題感

「情報Ⅰ」に関する 学校現場の課題

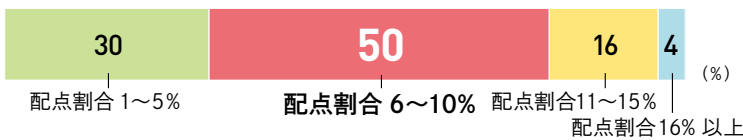
既にほぼすべての国公立大学で、2025年度大学入試の入試科目が公表されており、国立大学では96%の募集単位が、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）で「情報Ⅰ」を必須で課す予定だ。情報の配点まで公表している国公立大学653募集単位（23年6月9日現在）を見ると、共通テストの合計配点に占める情報の配点割合で最も多いのは6〜10%で、約半数を超える（図1）。配点割合10%は、一般的な地理歴史・公民や理科と同様のウエートであり、軽視できない配点だ。

セミナー参加者への事前アンケートでは、実に8割の教師が母校の「情報Ⅰ」の授業に課題を感じており、最も多く課題として挙げられたのが「共通テスト対応」だ（図2）。授業の中で、共通テストへの対応力をいかにして養うか、現場は苦慮している。「情報Ⅰ」を1年次の履修にしている学校にとっては、既に履修が終わった現2年生に対して、今後どのようなフォローを行っていくのかも重要なテーマと言えるだろう。

今回のセミナーではまず、「情報Ⅰ」の学習内容の定着状況の分析結果から現場の課題感を解き明かしていった。

共通テストの配点が小さくない情報の指導に、現場は課題感

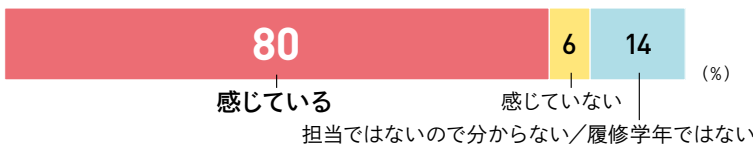
図1 共通テストにおける情報の配点割合（国公立大学の一般選抜）



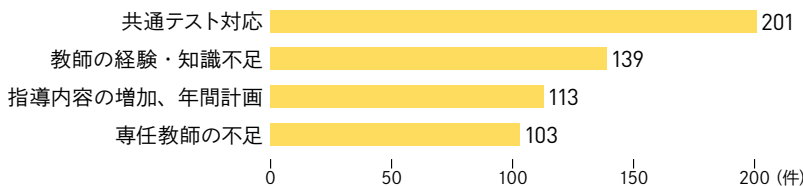
※共通テストの「情報Ⅰ」を必須で課し、該当情報の公表が確認された653募集単位を分析（大学・学部・学科・日程・方式）。
※情報を「点数化しない」と公表した徳島大学、「出願資格やボーダーライン上でのみ加味」とした高知大学などの募集単位は集計対象外。

図2 「情報Ⅰ」の指導における課題

Q 「情報Ⅰ」の授業に対して課題を感じているか



Q 具体的に課題に感じていること（上位4項目）



※本セミナーの事前アンケートに回答した268人の集計結果。複数回答。

共通テストでの重要分野の定着が不十分

「情報Ⅰ」の学習内容の定着状況の分析結果

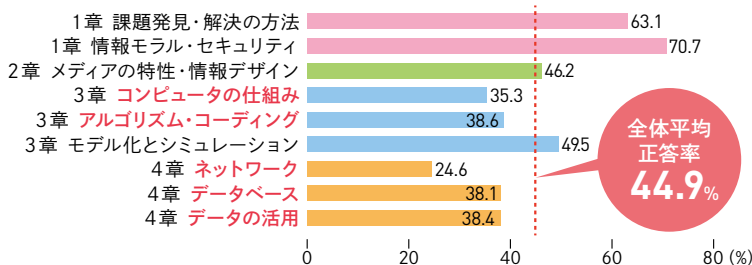
本セミナーの事前アンケートの結果から、情報担当の多くの教師が、自校の「情報Ⅰ」の授業に課題を感じていることが分かった。その課題感は何に起因しているのだろうか。本セミナーでは、「情報Ⅰ」に関するアセスメントのデータから見える、生徒の学習内容の定着状況から、その原因を探った。

分析に用いたのは、22年度に全国の高校生が受検した、「情報Ⅰ」を出題範囲とするベネッセのアセスメント「Pプラス」の結果だ。それを基に、生徒の「情報Ⅰ」の学習内容の定着状況を確認すると、学習項目間の正答率に大きな差が見られた(図3)。正答率が低かったのは、コンピュータの仕組みやアルゴリズム・コーディング、ネットワークデータベースなどの分野だ。公表された試作問題を踏まえると、25年度の共通テストで出題されること予想される「3章 コンピュータと

プログラミング」(試作問題での配点は100点満点中46点)、「4章 情報通信ネットワークとデータの活用」(同31点)の正答率が低いことは、看過できない課題と言えらるだろう。

受検結果から見てきた定着が不十分な分野

図3 「Pプラス」の結果概要



※ 2022年度。全国 3,091 人の受検結果より。
※ 章は共通テストの出題に対応。

特に正答率の低かった「Pプラス」の問題例

「Pプラス」では、知識問題を約3割、思考問題を約7割出題しており、正答率は知識問題の方が低い傾向にあった。正答率の低い問題の1つが、右図の問題だ。コンピュータの主記憶装置と補助記憶装置の特徴を分類する問題で、正答率は10.7%にとどまった。

この問題は基本的な知識問題であるが、裏を返せば知識がなければ解くことはできない。そのため、正答率が低い要因としては、そもそも授業で扱われたのかどうか、授業で扱った場合、その内容が定着していたかどうか、正答率に大きく影響したと言える。限られた授業時数の中で、共通テストで求められる内容を扱い、知識を定着させることは想定以上に難しいことなのかもしれない。

コンピュータの仕組みに関する知識問題

問い 次の説明を、「主記憶装置」にあてはまるものと「補助記憶装置」にあてはまるものに分類しなさい。

解答			
メインメモリともよばれる	SSDやHDDといった種類がある	電源を切ると保存されている内容が消える	CPUと直接データの受け渡しを行う
主記憶装置		補助記憶装置	

正答率 10.7%

解答

解説

主記憶装置	補助記憶装置
<ul style="list-style-type: none"> メインメモリともよばれる CPUと直接データの受け渡しを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 電源を切ると保存されている内容が消える SSDやHDDといった種類がある

どちらもデータを保存するための装置ですが、その役割は明確にわかれています。主記憶装置はメインメモリともよばれ、CPUと連動して動作しており、電源を切ると中身がリセットされます。一方、補助記憶装置にはSSDやHDD、USBメモリ、SDカードといった種類があります。こちらはデータの倉庫としての役割が主で、長期的にデータを残しておくことができます。

知識を活用する経験を 授業の中にいかに盛り込むか

正答率の低かった問題を見た上で、なぜ生徒はそうした問題が解けなかったのか、どのような授業を行えばそうした問題が解けたのかを、本セミナーでは考察した。

授業で扱った内容を生徒に定着させるためには、授業の中で様々な問題を解くだけでなく、日常生活における問題解決の場面で、授業で学んだ知識を活用したりすることが重要だ。また、思考力が求められる問題を解くためには、知識を生かして試行錯誤する経験が必要である。実際にプログラムを動かす、想定していた変数が代入されないといった経験を通じて、プログラムをトレースする力が身につけていくからだ。

「情報I」の授業に対して指導上の課題を感じている教師が多い原因は、学習内容の定着を促す上で欠かせない、知識を活用する経験を、授業の中につまやく盛り込めていない点にあるのではないだろうか。

実践例から考える入試対応 その1

単元ごとの授業デザイン

キーワード●座学と実習のバランス

限られた授業時数の中で 効果的に実習を配置

知識を活用する経験を生徒に積ませるためには、「座学と実習のバランス」が重要である。基本的な知識を学んだら、実習を通して知識を定着させ、思考力や問題解決力の向上につなげることは、共通テスト対策としても必要だ。限られた授業時数の中、基礎知識を身につけさせた上で実習を行うために、神奈川県・私立神奈川大学附属中・高校では、外部教材を活用した家庭学習で基礎知識を整理させている。授業では、グループワークなどの双方向のやり取りを通じて知識を定着させ、思考力の向上につなげることを目指している。

また、ある高校で行われた、「テキストデータの分析」をテーマにした2コマの授業における、知識の習得と小

規模の実習を散りばめた展開も、座学と実習のバランスを考える上で参考になる。具体的には、1コマ目で、形態素解析など、テキストデータの分析に利用される技術や用語について解説し（知識の習得）、2コマ目では、新聞記事を用いたテキストマイニングの実習に取り組みという展開だ。すべての学習内容を関連させた実習を盛り込むことは、時間的にも難しい。そこで、データを活用した問題解決の流れの中でも、ソフトウェアなどを活用してデータを分析する工程が、自校の生徒にとって特に重要であると判断し、実習に取り入れた（図4）。

各単元において、いつ、どのような実習を組み込んでいくのか、生徒の実態を踏まえた単元ごとの授業デザインが重要と言えるだろう。

単元のキーとなる内容を厳選して実習を行う

図4 データを活用した問題解決の流れ

- ① 問題を見つけ、データを活用した解決方法を検討する
- ② 求めるデータを明確にして、それを収集する方法を検討する
- ③ データを収集し、分析できる形式に処理する
- ④ ソフトウェアなどを活用してデータを分析する
- ⑤ 分析結果を解釈し、問題解決につながる提案をしたり、新たな問題を見いだしたりする

①～⑤に関する実習をすべて行うのは難しいため、キーとなる④に関する実習のみを行い、①②③⑤は、軽く説明するだけでイメージを持てるようにする

※ある高校の「テキストデータの分析の授業の流れ」を基に、編集部で作成。

授業時間外の学習の充実

キーワード●環境づくりと伴走

家庭学習や校内実力考査を活用し、学びを継続させる

本セミナー参加者の勤務校の約6割が、1年次に「情報Ⅰ」を履修させていた。そのため、25年度大学入試に向けては、1年次に学習した内容をいかに定着させるかも重要な課題だ。

ある高校では、外部教材を活用して、週末と長期休業中に課題を与えることで、生徒が家庭で「情報Ⅰ」を継続的に学習できる環境をつくっている。生徒のつまづきが特に見られた単元を抜粋し、その単元についての1回約10分の講義動画の視聴と確認問題の実施によって、生徒に負担をかけ過ぎることなく、「情報Ⅰ」の復習を行っている。また、2年次1学期は1年次の学習内容の復習、2学期は共通テストに向けた基礎的な内容の演習、そして冬季休

業以降は2月の共通テストの模擬試験に向けた対策及び復習と、大きな指導の流れを構築していることも参考になりたい。

別の高校では、2年次の長期休業明けの校内実力考査において、履修済みの「情報Ⅰ」を出題するという。夏季、冬季、春季休業明けの3回の校内実力考査において、「情報Ⅰ」の1年次の学習内容の定着状況を測定し、3年次の受験指導につなげていく考えだ。なお、3回の校内実力考査のうち1回を「Pプラス」の受検にすることで、全国基準で学習内容の定着状況を把握する予定だ。

生徒が「情報Ⅰ」の学習を継続することができる環境を整え、学習内容の定着状況を定期的に確認することが、3年次の指導の成否の鍵を握ると言えるだろう。

今回のウェブセミナーのPoint

- ✓ 共通テストを見据え、自校の生徒の学習上の課題を把握することが重要に。
- ✓ 実習を効果的に配置した授業デザインと、家庭学習などの授業時間外の学習の充実が、学習内容の定着の鍵を握る。

本セミナーで課題の分析に活用した、「情報Ⅰ」対応のCBT形式アセスメント「Pプラス」の詳細は、右の2次元コードまたは下記URLからご覧ください。

<https://www.p-pras.com/basic/> または



2023年度第1回「情報Ⅰ」ウェブセミナー 新課程2年目「情報Ⅰ」の授業実践と入試対応を考える

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20230601_jugyojissen/index.html

「情報Ⅰ」の指導上の課題や入試対応のポイントを、全国の学校の実践例とともに解説！ ぜひご覧ください。

一問問や課題を解決！実践につながる！

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

『ハイスクールオンライン』トップページ>新課程への対応>教科「情報」からアクセス

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/joho/

働き方改革

生き生きと働き続けられる
学校づくりへの挑戦

「働きがい改革」を提唱する識者が、学校の働き方改革の実践をバックアップ。その実践の背景や具体的な取り組み、そして成果と課題を、複数回にわたってレポートします。

愛媛県立
松山南高校編

第1回

自校の現状と向き合う

長時間勤務の解消に向け、

既存業務の見える化を

学校概要

設立 1891 (明治24) 年
形態 全日制・定時制/普通科・理数科/共学生徒数 (全日制) 1学年約 360 人
2022年度卒業生進路実績 (全日制) 国立大は、北海道大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、愛媛大、九州大などに 249 人が合格。私立大は、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ 576 人が合格。

長時間勤務の解消が
目下の課題

露口 2022年度から、本腰を入れて働き方改革を進めていると伺いました。

松田 昨年度から、教員志望の大学生を中心に、愛媛県教育委員会の施策のスクールサポーター等として、7人配置しています (*1)。大学生に、事務補助や生徒の学習支援、3年生の面接指導における面接官役などを担当してもらうことで、教師は別の業務に取り組みますし、大学生が生徒に熱心に指導する姿に、教師も刺激を受けています。

池田 今年度からは、先生方にノー残業デーを月5日設定してもらい、事前に校務システムのカレンダーに入力してもらおう取り組みも始めました。先生方が、退勤時刻を意識して日々の業務

を組み立てることを期待しています。

本校の一番の課題は、長時間勤務の解消です。本校はSSH (*2) の指定を受けて22年目で、先進校として先生方は仕事に大きなやりがいを持っていますが、仕事量が多く、長時間勤務になりがちという実態があります。

露口 タイムマネジメントの意識を持つことが大切ですね。

池田 仕事熱心なあまり、総じて時間をあまり意識していないことが、長時間勤務の要因の1つだと考えています。実は既にノー残業デーを入力する人が減ってきているので、いま一度、声をかけようと思っています。

ただ、教師の仕事は時間で区切れるものではなく、生徒からの質問や相談にはいつでも対応しますし、よりよい授業をしようという先生方の熱意に水



校長
池田 哲也
いけだ・たつや
同校に赴任して2年目。



進路指導課長
松田 猛
まつだ・たけし
同校に赴任して6年目。数学科。

を差したいわけではありません。朝早く出勤して授業準備をすることを好む先生もいます。勤務時間への対応は悩ましいところがあります。

各自の業務を4つに分類し、
負担業務を洗い出す

露口 私が実施した調査では、ワーク・エンゲイジメント (*3) が高く、時

アドバイザー

愛媛大学大学院教育学研究科
教授

露口 健司 つゆぐち・けんじ

主な研究テーマは、学校組織のリーダーシップ、学校組織のウェル・ビーイングとワーク・エンゲイジメントなど。国立教育政策研究所客員研究員、中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」臨時委員等も務める。



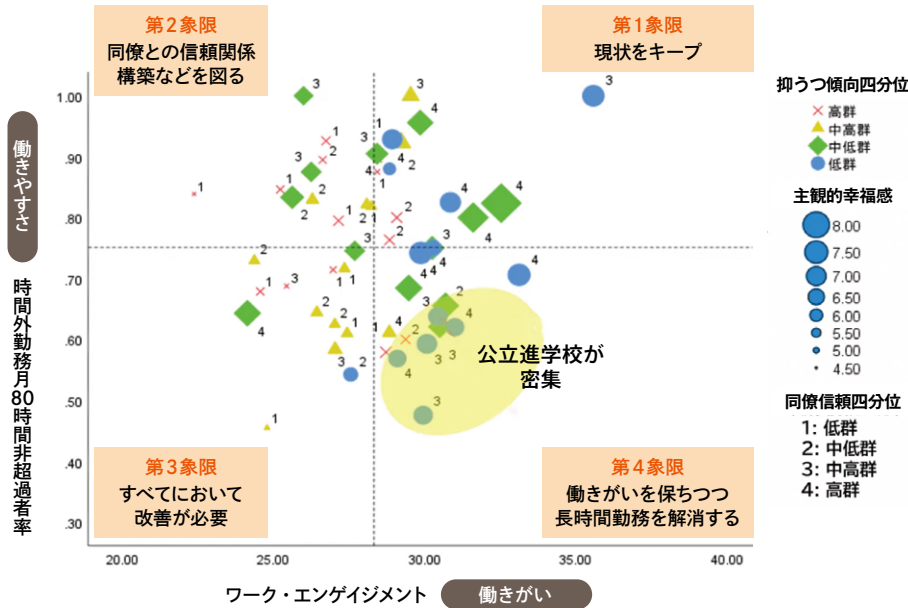
*1 同校の「外部人材の活用」に関する取り組みは、本誌2022年10月号「指導変革の軌跡」で紹介しています。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の「高校版バックナンバー」(<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>)、または右の2次元コードからアクセスしてください。

*2 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」。

*3 オランダ・ユトレヒト大学のシャウフェリ教授らが提唱した概念であり、「仕事から活力を得て生き生きとしている」(活力)、「仕事に誇りとやりがいを感じている」(熱意)、「仕事に熱心に取り組んでいる」(没頭)の3つがそろった状態として定義される。



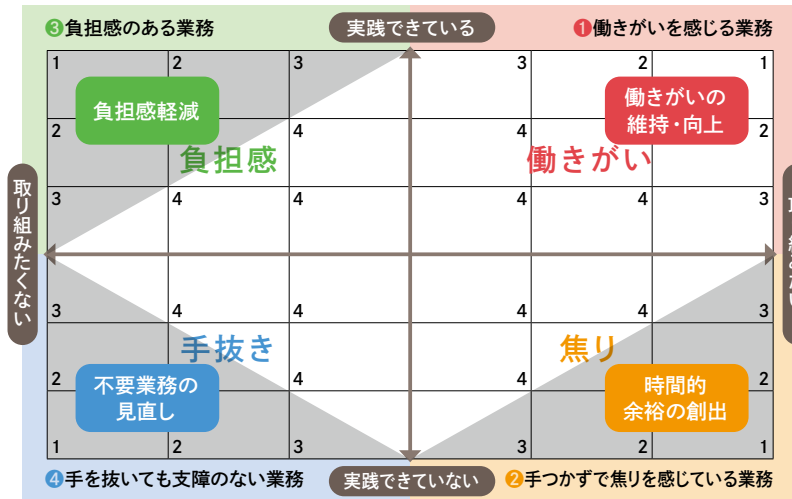
図1 「働きやすさ」と「働きがい」の視点で、働き方の課題を分析



※露口教授の提供資料を基に編集部で作成。

労働状況を見る指標は複数あるが、露口教授の調査分析では、各校の「幸福感」「同僚への信頼感」「抑うつ傾向」の度合いを、「時間外勤務月80時間非超過者率」を縦軸、「ワーク・エンゲイジメント」を横軸にしてプロットした。自校が4象限のどこに位置するかによって、働き方改革での取り組みが変わる。例えば、第4象限の学校では、高いやりがいを保ちつつ、長時間勤務を解消することが課題だ。一律に時短を求めると、同僚との交流が減って同僚性が損なわれたり、教育活動の準備ができなかったりして、働きがいを失ってしまう可能性があるため注意が必要だ。

図2 既存業務を見える化するワークシート



※露口教授の提供資料を基に編集部で作成。

【研修の手順】

- ①自分が担当する業務内容を10枚程度の付せんには書き、ワークシートの該当のゾーンに貼る。縦軸は「実践できている」「実践できていない」、横軸は「取り組みたい」「取り組みたくない」とし、重みづけをしなが貼る。重みづけは、各ゾーンを9マスに分け、「1～4」の4段階とする。
- ②グループでワークシートを共有し、右上ゾーンの「①働きがいを感じる業務」は残し、ほかの3つのゾーンの隅にある業務（左図のグレー部分）について、精選や外部委託などを検討する。中でも、負担感のある業務の改善策を検討する。

**次号は、既存業務の見える化に
取り組む同校の校内研修の模様
を追跡します。**

現状を把握することが重要です。

池田 早速、本校でそれを校内研修で実施したいと思います。

露口 自校に合った業務改善の方法を選ばないと、マイナスの影響が出てしまつてしまいます。自校の教師が何を求めているのか、本シートを使って

現状を把握することが重要です。

池田 早速、本校でそれを校内研修で実施したいと思います。

露口 まずは既存業務の見える化をしてみましょう。図2のワークシートで負担感のある業務や不要業務を洗い出し、1つずつ改善策を検討していきましょう。負担に感じる業務はそれぞれ異なります。教師一人ひとりが自分の業務を洗い出し、それを教師間で共有する場を設けることも一案です。

松田 長時間勤務を解消するためのよい手立てはありますか。

露口 まずは既存業務の見える化をしてみましょう。図2のワークシートで負担感のある業務や不要業務を洗い出し、1つずつ改善策を検討していきましょう。負担に感じる業務はそれぞれ異なります。教師一人ひとりが自分の業務を洗い出し、それを教師間で共有する場を設けることも一案です。

池田 早速、本校でそれを校内研修で実施したいと思います。

露口 まずは既存業務の見える化をしてみましょう。図2のワークシートで負担感のある業務や不要業務を洗い出し、1つずつ改善策を検討していきましょう。負担に感じる業務はそれぞれ異なります。教師一人ひとりが自分の業務を洗い出し、それを教師間で共有する場を設けることも一案です。

総合的な探究の時間 中間発表の様子

● 様々な興味・関心を各生徒が探究



◎探究テーマ例

- 製菓の魅力
- 現代建築の魅力
- ピアスについて
- 記憶について
- やる気を出すには
- 瞑想について
- メイクの変化

● 生徒の「ありのまま」を認める

◎全員に表彰状を授与



◎審査員のコメント例

深いテーマでした。数年後、ふとした瞬間に答えが出る。そんな問いのような気もします。これからこの問いを大切にしながら迷走していただきたいなと思いました。ちなみに私は、「なぜ生きているのか」を8年間くらい考え続けました。ある日突然答えが出ました。

2023年3月、福岡県立ありあけ新世高校定時制課程の3年生全11人が、「総合的な探究の時間」の中間発表を行った。それは、各生徒がこれまで取り組んできた探究テーマについて、15枚程度のスライドを使って約5分間で発表するもので、内容は就きたい職業に関することや、興味・関心のあること、生活の中で抱いた疑問など、多岐にわたった。

中間発表には、オンライン会議ツールを使って、大学教授や経営者団体の理事、NPOの代表など、様々な分野の専門家が社会人審査員として参加した。社会人審査員の人数は、1対1で生徒と向き合えるよう、生徒と同数の

11人とした。発表後、社会人審査員が入れ替わりながら、卒業年次となる4年次の探究学習につなげていくための助言を生徒一人ひとりに行った。

中間発表を企画した定時制課程3学年担任（当時）の前川修一先生は、「社会人の方々には、発表内容の審査以上に、生徒との対話を期待した」と語る。

「発表を通して、生徒のありのままに引き合い、よく頑張っているねと褒めていただきたいと思いました。生徒にとって、各界の第一人者に今の自信を受け止めてもらう経験は、生きる自信を得る機会になると考えたのです」



主幹教諭・教務主任兼4学年担任
前川修一
まえかわ・しゅういち
同校に赴任して5年目。地理歴史・公民科。



11人の社会人が向き合った 多様な生徒の「ありのまま」の学び

福岡県立ありあけ新世高校 定時制課程

学校概要

設立 2003 (平成 15) 年
形態 全日制・総合学科/定時制・普通科/共学
生徒数 (定時制) 1学年 11人 (2023年度 4年生)
2022年度卒業生進路実績 (定時制) 専門学校進学1人。就職2人。その他2人。



大学の研究室からオンラインで中間発表に参加し、生徒の発表に講評を述べる杉森公一教授。

審査員として参加した社会人の声

自

分の中に生まれた否定的な感情から目をそらさなかつた経験を語った生徒とは、「そういう思いを言葉にできることが素晴らしいね」と、その生徒の成長を後押しするような気持ちで話をしました。また、自分の好きなものについて楽しそうに語った生徒とは、もっと知りたくなった私の気持ちを伝え、一緒に深めていきました。審査員や大学教授としてではなく、学ぶという意味で自分は生徒と対等の存在なのだと思います。一人ひとりと向き合いました。「自分と同じ、学ぶ人だ」と生徒に思ってもらえたのならうれしいです。

生

徒たちは、自分が本当に取り組みたいテーマについて探究していました。今回の発表がきっかけでそれぞれの人生が変わるかもしれないし、1人の人生が変われば、社会が変わるかもしれない。私は心から感動しました。探究学習のサイクルの回し方やテーマの学術性に目が向きがちですが、人生を変える探究こそ、すべての高校で取り組んでほしい学びだと思います。11人の発表を聞いた後、私は、自分が全員の生徒の名前を覚えていることに気がつきました。様々な探究の場面に立ち会いましたが、初めての経験でした。

審

査員として心がけたのは、生徒に心を開いてもらうことでした。生徒の「今」を肯定し、それぞれの発表のよいところを具体的に指摘しました。すると、どの生徒も私の言葉を素直に受け止めてくれました。建築、ピアス、製菓……、どれも私は詳しく知らないテーマですが、私が「もっと知りたい」と尋ねると、どの生徒も楽しそうな表情で、発表し切れなかつた話を聞かせてくれました。発表に対する一方的な講評ではなく、生徒と対話ができたことがうれしかったです。

宮崎県立宮崎東高校 定時制課程夜間部教諭

西山正三

北陸大学高等教育推進センター長・教授

杉森公一

東京大学大学院教育学研究科教授

栗田佳代子

温かく認められることで、 学び続ける力を得る

生徒たちは、過去に不登校を経験したり、中学校までの基礎学力が十分に身につけていなかったり、対人関係の構築が苦手だったり、それぞれ困難や課題を抱えている。

「この生徒も、高校で徐々に自己肯定感や自己有用感を取り戻していきます。それでも今後、壁にぶつかつた時に、『どうせ自分は……』といった言葉が頭をもたげることがあるかもしれません。そんな時に立ち直るために必要なのが、成功体験です。そこで、講評を通して、やり遂げた、認められたという喜びを生徒に味わわせてください」と、社会人審査員にお願いしました。前川先生は、定時制の生徒の多くにとって、大学受験は学びの動機づけにならないため、課題やテストを使って学びに向かわせることが難しいと説明

する。しかし、「それぞれの生活の中で生まれた興味・関心や喜怒哀楽に教師が共鳴すると、学びに没頭し始めることがある」と前川先生は言う。そのため、11人の社会人審査員が「ありのままの自分」を語る生徒の発表に耳を傾け、興味・関心を示し、温かな言葉をかけてくれたことがありがたかつたと、前川先生は振り返る。

「ある生徒が発表後、『たかさんの先生に褒めてもらえてうれしかった。探究をさらに深めるアイデアを生活の中で見つけて、次の最終発表につなげたい』と振り返っていました。高校入試当日、ほかの人と話すのが苦手で、壁に向かつて休み時間を過ごしていた生徒も、社会人との対話を楽しんでいました。人は皆、成長のタイミングやペースが違います。私たち教師は、よりよい学びの環境をつくつたら、あとは生徒を信じて待てばよい。そのことを改めて生徒に教えてもらいました」

生徒たちの発表内容や社会人審査員が生徒にかけた言葉、そして探究学習を通して生徒に学ぶ力を取り戻させていった前川先生の指導について、ウェブオリジナル記事でぜひご覧ください。
<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article16393/>



〈本コーナーは隔号連載です。次回は12月号の予定です〉

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

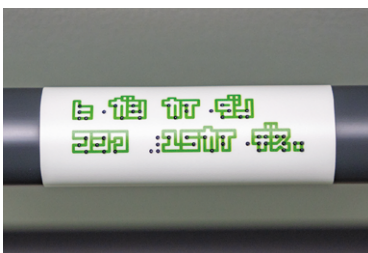


点字にカタカナやアルファベットを重ね合わせることで、目の不自由な人も視覚に障害のない人も書かれてあることが理解できる点字フォント「ブレイルノイエ」を採用した渋谷区役所本庁舎の案内板。

Who is this person?

新しいコミュニケーションツールを創出し、 人と人の「つながり」をデザインする発明家

1993年東京都生まれ。東京学芸大学附属高校卒業。慶應義塾大学環境情報学部卒業。大手広告代理店にプランナーとして在職中の2017年、点字と文字を組み合わせることで、目でも指でも読むことができるユニバーサルな書体「ブレイルノイエ」を発明。19年には、盲ろう者（視覚と聴覚の両方に障害のある人）のコミュニケーション手段である「触手話」をベースにしたコミュニケーションゲーム「LINKAGE」を開発する。22年に「接点の発明家」として独立し、年齢や国籍の違い、そして障害の有無といった、人と人のある境界を越え、多様で異質な人々がつながるための新しいコミュニケーションの方法やツールを追究している。



渋谷区役所本庁舎の階段の手すり。「ヒガシカイダン ココワ 15カイ デス。」



文字（カタカナ、英数字）と点字が一体化し、目でも指でも読めるユニバーサルな書体。

目でも指でも読める点字
 「ブレイルノイエ」に見る
 みんながつながる未来
 発明家 高橋 鴻介

つながりのない人同士を 発明でつなげたい

「高橋くん、点字が読めると、暗闇でも読書ができるよ」。視覚障害者の方にそう言われて、びっくりしました。そうか、僕が点字を読めるようになっても構わないんだ！ その言葉がきっかけで点字に興味を持ち、「ブレイルノイエ」の発明につながりました。点



私の高校時代

小学生のころからロボット製作に取り組んでいました。それもあって、高校入学当初は何となく「理系に進んで、エンジニアになるのかな」と考えていました。写真は、高校の文化祭でバンド演奏した時のものです。

字の隣に墨字を置いて書いてあることは伝わるけれど、点字と文字を組み合わせることで、「この点字は、こんな意味だったんだ」と、より点字に興味を持つ人が多いです。一緒にすると、混ぜることで、視覚障害者と晴眼者の距離が近づくような感覚になるのではないのでしょうか。別々にではなく、あたり前のように一緒にある。そんな場づくりに、「ブレイルノイエ」は貢献できているのかなと思います。

ある時、視覚障害者の友人が、僕にこんなことを言いました。「障害のある人と初めて会った」とよく言われる。世の中にはたくさんの障害者がいるのに。それは障害のある人を見たことはあっても、かかわったことがないということの意味しているのだと思います。相手とかかわりを持ち、その人のことを知る一番簡単な方法は、友達になることです。友達になれば、相手

がどんな世界を生きて、どんな楽しさを味わい、どんな困りごとに向き合っているのかが分かります。そこで僕は、つながりがなかった視覚障害者と同じ場を共有するツールの1つとして「ブレイルノイエ」を、盲ろう者と一緒に遊べるゲームとして「LINKAGE」を開発したのです。

ある高校で生徒と考えた 「未来の学校」の姿

高校時代で忘れられないのが、情報の授業でのCM制作です。ほかの教科は、時間をかけて勉強すれば正解の出る課題が多かったのですが、その授業では、「これではメッセージが伝わらない」などと先生からフィードバックされ、どうすればよいかを自分で考えることを繰り返すのです。答えが1つではない学びを経験し、世界が広がりました。それがきっかけでデザインに興味を湧き、進学先を決めました。

高校時代には、世界を広げてくれるような大人と、たくさん出会うことが大切です。先生以外の社会人にもたくさん出会った方がいい。異業種の人々が同じ空間を共有し、働く「コワーキング」が世界中に広まっていますが、学校も同じように社会に開かれ、いろいろな大人が学校に出入りして高校生と話すようになれば、高校生も社会人もお互いに刺激し合えると思います。

先日、九州のある公立高校で、「未来の学校をデザインしよう」をテーマに高校生と対話しました。一番印象に残ったアイデアが、「職員会議に生徒が参加する」です。普段の職員会議に

生徒が交ざり、話を聞くだけでもいいし、意見を言ってもいい。先生と生徒と一緒に学校について考える時間には、大きな価値があるはずです。

1人の生徒から、「どうすればアイデアが独り善がりなものにならないか」と尋ねられました。その問いに対して、僕はうまく答えられませんでした。僕が、一緒に悩んだ時間はとてもよい時間でした。どちらかが一方的に教えるのではなく、対等な関係で一緒に悩む。未来の学校で繰り返されるのは、そんな学びなのかもしれません。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任



※撮影協力/渋谷区役所



東京都・私立トキワ松学園中学校高校の取材は、同校の図書室で行いました。「探究女子」の知的好奇心に伴走する同室の躍動は、記事(P.10～12)の通りです。取材中に来室した生徒の話し声や衣擦れ、ページをめくる音も、「知の拠点」の静謐の一部でした。卒業時には、6年間の蔵書貸し出し記録が生徒一人ひとりに贈られるとのこと。そう、写真には写らないものも、青春に彩りを添えるのです。センター試験の直前演習で「デューク」(江國香織『つめたいよるに』所収)に出合った18歳の私は、その日のうちに図書室に駆け込んだのでした。

「読んできた本でどんな人かが分かる」(立花隆)、「重要なのは何を観たかではなく、いつ観たか」(岩井俊二)。いつ読んだどの本が私を形作ったのか。私を突き動かした衝動は何だったのか。もうすぐ読書の秋。書架を巡り、それら確かめようと思います。(河野)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2023年10月号

10月16日発売

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です。

Reader's VIEW

先生方からのご意見を紹介します

2023年6月号(創刊400号)へのご意見

「自分なら何ができるか」の視点を持つ生徒を育む

6月号の特集に掲載された学習院大学の秋田喜代美教授と3人の若者との対話の記事において、立崎乃衣さん、伊関佳純さん、清水陸志さんの取り組みを読み、「自分なら何ができるか」という視点の大切さを実感した。これからの社会では、その視点を持っている人こそが活躍し、社会を変えていけるのだと思う。我々高校教師は、そうした視点を生徒が持てる仕組みや雰囲気づくりをしていかなければならないと痛感した。一方で、学校や高校教育をよりよくしていくためには、1人の教師として何ができるのだろうかとも思ってしまう。まずは、自分自身の授業改善・生徒とのかかわり方の改善であると考えている。

静岡県・浜松市立高校 池谷 理

起立性調節障害について、自然な形で生徒に伝えたい

6月号の特集の学習院大学の秋田喜代美教授と清水陸志さんによる「対話3」の記事を読み、恥ずかしながら、内閣府認定特区高等学校という枠組みを初めて知った。起立性調節障害で悩んでいる生徒は多くおり、そのほとんどがかなり深刻に思い悩んでいる。そうした生徒がいる学校にとっては勇気づけられる記事だと思う。起立性調節障害について、自然な形で生徒たちに紹介する機会を持ちたい。

大分県立盲学校 堀 奈々絵

「創りたい社会」という視点の大切さ

6月号の特集を読み、「創りたい社会」という視点の大切さに改めて気づいた。教育に携わる者の根底には、この想いが必要だと思う。今回の特集は、教育の本質、あるいは原点を思い起こすものであった。若者との対談を切り口に教育論を深めている点もよかった。また、「課題1 学び続ける人材の育成」の岸ふみさんの実践の記事を読むまで、恥ずかしながら「グリーンウォッシュ」という言葉を知らなかった。探究学習の落とし穴に気づくとともに、「気づき」を豊かな学びにつなげた岸さんの姿に拍手喝采を送りたい気持ちに駆られた。

龍谷大学高大連携推進室 堀 浩司

「学校でこそできる学び」を考え続ける

6月号の「新課程レポート」の記事で静岡県立小山高校の美那川雄一先生が述べられていたことに共感した。私も、「学び方や学びの意味・目的など、生徒1人では深めることが難しい点を重視」した授業を構想したいと思った。特に、全日制普通科における「学校でこそできる学び」とは何かを、考え続けていきたい。

静岡県立下田高校 稲葉 涉

ICT機器を用いた自由進度学習を実践したい

私自身が「教えない」授業を目指しているので、6月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された山口県立岩国総合高校の川端雄也先生の生物の実践の記事にあった、ICT機器を使って生徒が自由進度で学習する工夫が参考になった。この夏に研究して、2学期以降に実践したい。

東京都立調布南高校 徳武英人

VIEWnext 編集部からのお知らせ

教育総合情報サイト VIEWnext ONLINE

読者に好評！ お勧めコンテンツ

教育総合情報サイト『VIEW next ONLINE』は、学校関係者や保護者、そして教育に関心のある方へ、『VIEW next』高校版のバックナンバーに加え、有識者の教育に関するオピニオンや、保護者から寄せられた教育相談への回答を発信しています。学校での日々のご指導に、ぜひご活用ください。

教育オピニオン

各界の有識者が、教育に関するオピニオンや教育への思いを発信。

読者の声

斬新なアイデアで視野が広がり、教育実践の参考になっています



AI時代に必要な教育とは？

あたくかずと
安宅和人氏

慶應義塾大学
環境情報学部教授、
Zホールディングス株式会社
シニアストラテジスト

なぜ「寝る子は育つ」のか？

成田奈緒子氏

文教大学教育学部
特別支援教育専修教授、
日本小児科学会認定
小児科専門医・発達脳科学者、
子育て科学アクシス代表

学校をこう変えよう！
新時代の教育改革

藤原和博氏

教育改革実践家、
東京都杉並区立和田中学校
元校長

教育なんでも相談室

保護者から寄せられた学習・進路・生活に関する悩みに、豊富な知見を持つアドバイザーが丁寧に回答。

読者の声

保護者からの教育相談に活用しています。学校外の視点を知ることもできます



志望の高校に入学した途端に
なくなった学習意欲や学習習慣を、
取り戻してほしい。

(大阪府/高1男子・母)

部活動と遊びに夢中で、ほとんど勉強しない。どうすれば勉強に向かう？

(福岡県/中3男子・母)

ゲームやインターネットへの依存状態から抜け出させたい……。

(東京都/小5男子・母)

アクセスはこちらから！

URL <https://view-next.benesse.jp/>

検索ワード VIEW next ONLINE

検索

2次元コード





生徒と創る学びの情景

英語が広げる世界

東京都・私立瀧野川女子学園中学高校 芝辻憲子先生



「英語をもっと自然に使えるようになってほしい」という思いから、授業を見直したという英語科主任の芝辻先生。英語表現の幅を広げて、海外の文化や歴史などの理解を深める場にしようと、2021年度から全学年の教科書を変更した。教科書の特長を生かした授業の進め方を英語科内で研究し、カリキュラムに反映。授業後には、生徒の様子や理解度を共有し合い、生徒に合った課題設定や、より分かりやすい説明の仕方などを工夫してきた。「生徒が私たちの指導に懸命に応えてくれたからこそ、授業が大きく改善されました。今の授業は生徒と一緒につくってきたものです」と語る芝辻先生に、「先生の留学時代のことなど、関連する楽しい話も織り交ぜて授業をしてくださるので、教科書が難しくても頑張ってお勉強しました」と生徒たち。3年次の英語の授業はすべてネイティブスピーカーが担当するが、どの生徒も英語で担当教師に質問ができるほど力をつけた。「普段から英語を使う本校の環境を生かし、英語力を強みとして活躍の場を広げていくことを願っています」。

しばつじ・のりこ 同校に赴任して18年目。英語科主任。生徒指導副主任。高1学年主任。

東京都・私立瀧野川女子学園中学高校 1926（大正15）年設立／全日制／普通科／女子校／1学年約120人／2022年度卒業生進路実績 私立大は、学習院女子大、昭和女子大、東京農業大、東京薬科大、東京理科大、東邦大、東洋大、日本女子大、明治大、明治薬科大などに延べ88人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月～金8:00～18:00／土8:00～17:00（祝日、年末・年始を除く）